

宮城県 こどもアンケート調査

－調査結果報告書－ 【概要版】

<目 次>

I 調査概要..... 115

II 調査結果

1 あなた自身について

1-1 性別..... 117

1-2 居住圏域..... 117

1-3 同居家族..... 117

2 ふだんの生活について

2-1 地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動の参加状況..... 118

2-2 次の場所は居場所になっているか..... 119

2-3 次のような場所の利用経験..... 121

2-4 利用したことによる変化..... 122

2-5 困ったり悩んだりしていること..... 123

3 家族や他者とのかかわりについて

3-1 家族や他者とのかかわりについて..... 124

3-2 孤独感..... 125

4 新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について

4-1 新型コロナウイルス感染症拡大時に、やりたかったけれどできなかったこと... 128

5 今考えていることや将来のことについて

5-1 自身の考え方..... 129

5-2 自己認識..... 131

5-3 生活の満足度..... 132

5-4 進学希望..... 134

5-5 希望の学校へ進学したい理由..... 135

5-6 結婚に対する考え..... 141

5-7 結婚に対して持っているイメージ..... 142

5-8 将来子どもを持ちたいか..... 143

5-9 子育てに対して持っているイメージ..... 144

5-10 自分の将来について明るい希望を持っているか..... 145

III 総括

1. 内向的な性格の傾向..... 148

2. 様々な場所で他者とかかわることで得られる安心感..... 148

3. 将来の希望..... 149

I 調査概要

1 調査の目的

こども基本法第 10 条に規定する「都道府県こども計画」である「みやぎこども幸福計画（令和 7 年度～令和 11 年度）」の策定に向けて、「こども」や「子育て当事者等」の意識や実態等の把握、及び同法第 11 条に規定するこども施策の策定等に当たり「こども」や「子育て当事者等」の意見を聴取することを目的に実施した。

2 調査期間

令和 6 年 7 月 8 日（月）～令和 6 年 7 月 26 日（金）
※ 8 月 15 日（木）回収分までを集計に含めた

3 調査対象

宮城県内 35 市町村の中学 2 年生及び特別支援学校中学部 2 年生
① 中学校（204 校） 19,138 人
② 特別支援学校（19 校） 191 人
合計 225 校 19,329 人

4 調査方法

学校を通じての直接配布／タブレット等を使用した WEB 回答で回収
※ ただし、インターネットを利用できない生徒に対し、郵送での調査にも対応

5 回答状況

配布数①	総回答数		有効回答数②		有効回答率 ②／①	
	紙	WEB	紙	WEB	紙	WEB
19,329	48	7,241	48	7,169	0.2%	37.1%
	合計		合計		合計	
	7,289		7,217		37.3%	

6 調査結果の見方

- n（number of cases）は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表しています。
- 回答割合は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、単一回答式の質問においては、回答割合を合計しても100.0%にならない場合があります。また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると100.0%を超える場合があります。
- 回答が皆無（0件）であった選択肢の回答割合は、図表中では「-」と表記しています。
- 回答があった場合でも件数が少ないために0.0%となっている場合は「-」と区別して「0.0」と表記しています。
- 図表中またはコメント中で2つ以上の選択肢の回答割合の合算値を掲載している箇所は、四捨五入の関係で、個々の回答割合の単純な足し上げ値と一致しない場合があります。
- 調査数（n）が少数のものは、回答割合の信頼性が低いため、コメントを省略している場合があります。
- 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化等している場合があります。
- 一部の設問では過去に国で実施された調査結果との比較分析を行っており、その際の図表及びコメントでは調査名を以下のように表記しています。

図表及びコメント上の表記	調査名	調査主体
令和6年度県調査	宮城県こどもアンケート調査	宮城県
令和4年度国調査	こども・若者の意識と生活に関する調査※	内閣府
令和2年度国調査	子供の生活状況調査（中学生票）	内閣府

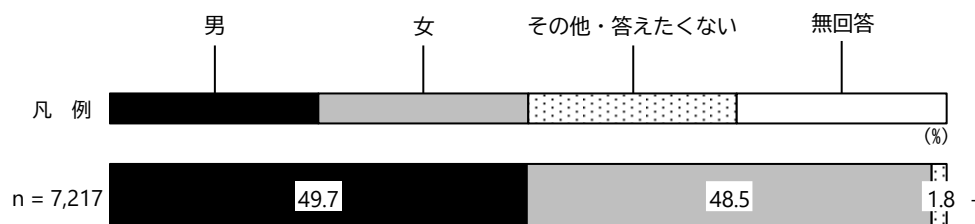
※「こども・若者の意識と生活に関する調査」では、10歳～69歳の方を対象として調査を実施していますが、比較分析にあたってはそのうち、本調査（中学2年生）の対象と同じく「調査年度の4月1日現在13歳」の集計結果を抜粋して比較を行っています。

Ⅱ 調査結果

1 あなた自身について

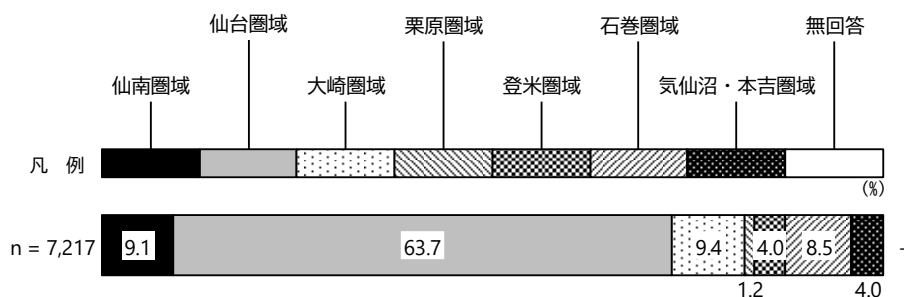
1-1 性別

問1 あなたをの性別を教えてください。(○は1つ)



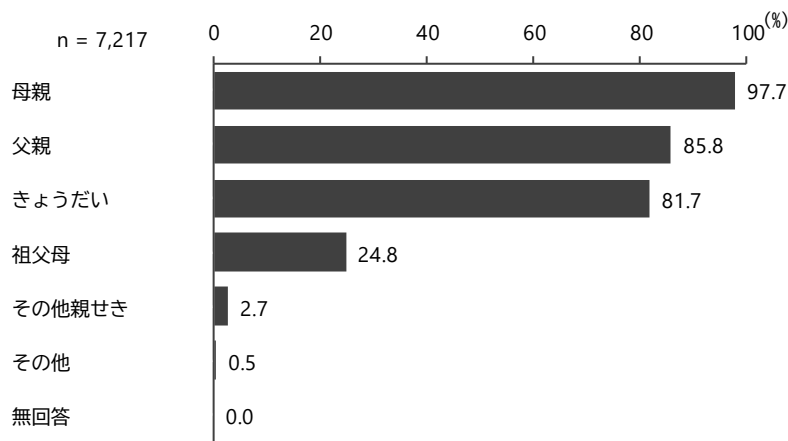
1-2 居住圏域

問2 あなたが現在住んでいる市町村を教えてください。(○は1つ)



1-3 同居家族

問3 現在、あなたがいっしょに住んでいる人をすべて選んでください。(○はいくつでも)



2

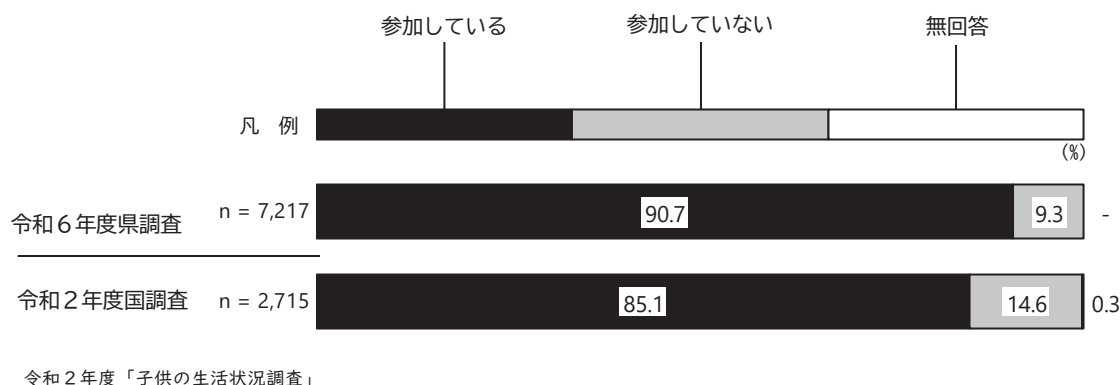
ふだんの生活について

2-1 地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動の参加状況

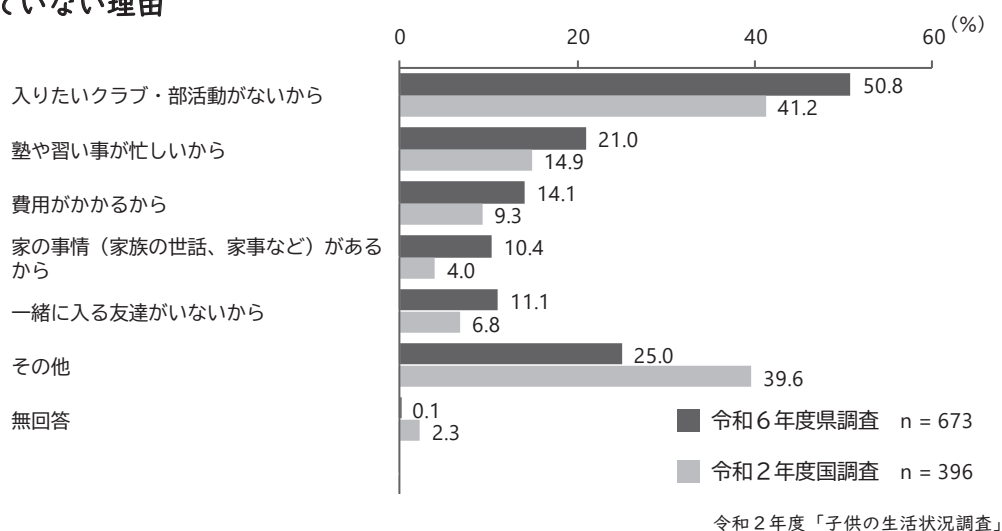
問4 あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(〇は1つ)

問5 前の質問で、「2 参加していない」と答えた方にお聞きします。

地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していない理由は何ですか。
(〇はいくつでも)



◆参加していない理由



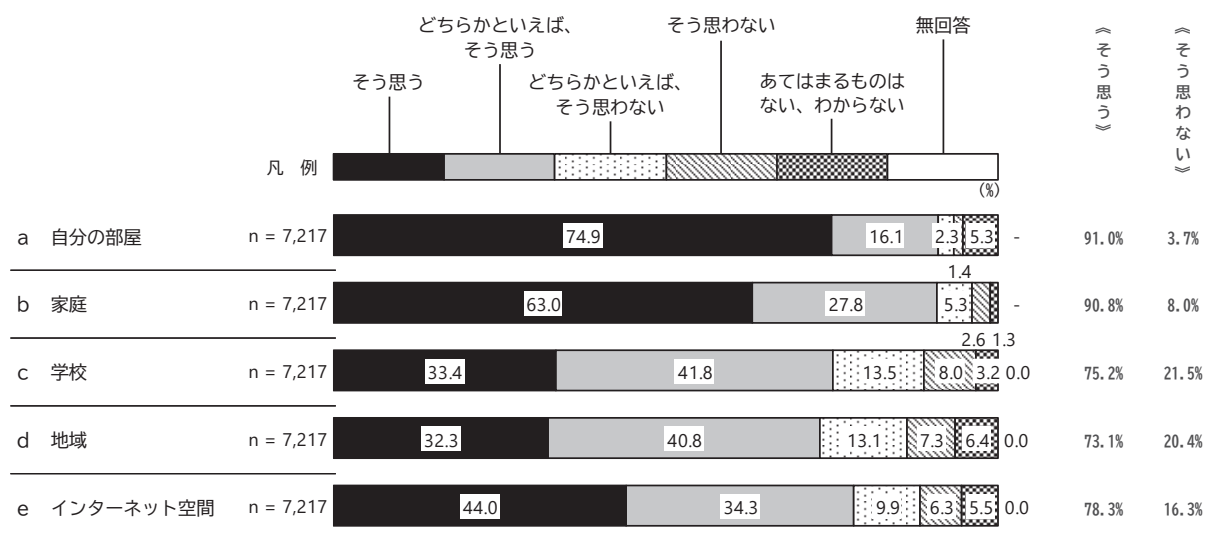
参加していない理由をみると、「入りたいクラブ・部活動がないから」が50.8%と最も高く、次いで「塾や習い事が忙しいから」(21.0%)、「費用がかかるから」(14.1%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「その他」が10ポイント以上低くなっていますが、これは令和2年度国調査の調査時期がコロナ禍であり、令和6年度県調査と差が生じた一因と考えられます。一方で、「入りたいクラブ・部活動がないから」が9.6ポイント高くなっており、選択肢がない、またはこども達自身の興味・関心が薄いことがうかがえます。

2-2 次の場所は居場所になっているか

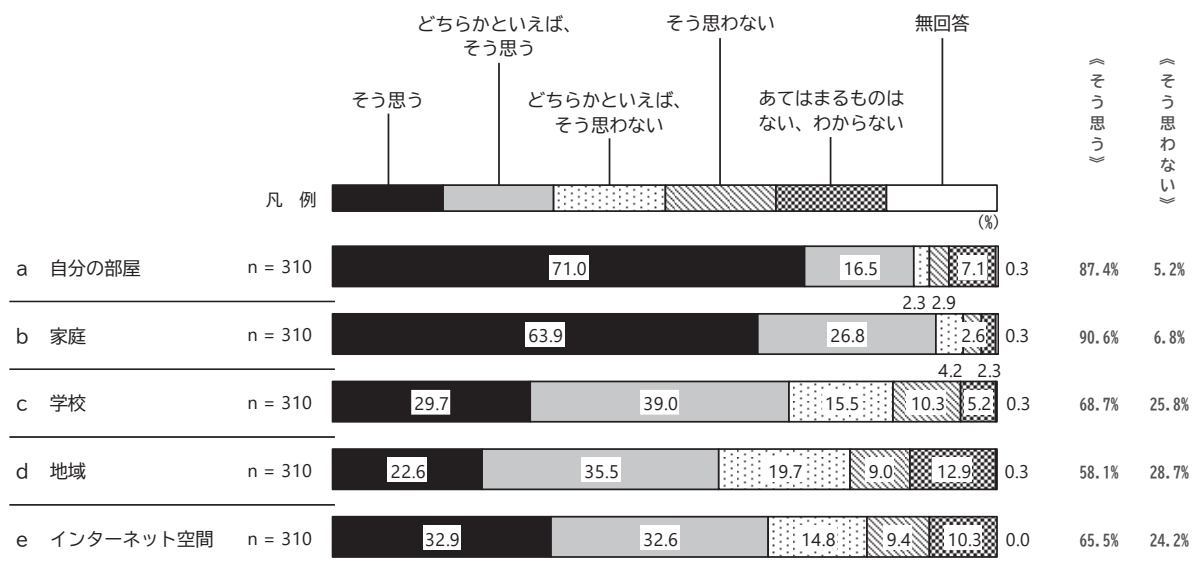
問6 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）になっていますか。（a～eそれぞれについて、1～5のいずれかに1つつ〇）

【令和6年度県調査】



【令和4年度国調査】

令和4年度「子ども・若者の意識と生活に関する調査」（※13歳の結果を抜粋）



次の場所は居場所になっているかについて、《そう思う》（「そう思う」＋「どちらかといえば、そう思う」の合計）は、全ての項目で7割を超え、特に『a 自分の部屋』、『b 家庭』は9割を超えています。

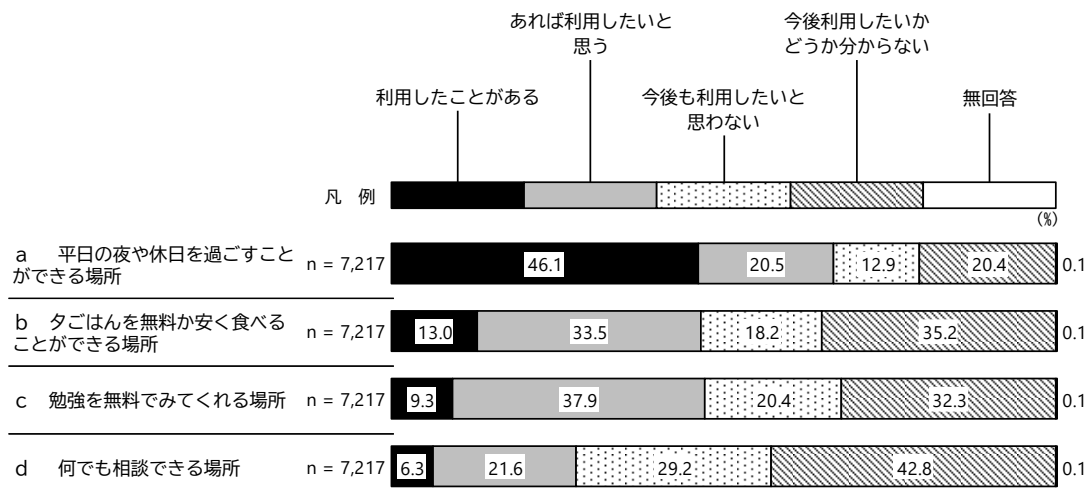
令和4年度国調査と比較すると、《そう思う》は『d 地域』が15.0ポイント、『e インターネット空間』が12.8ポイント高くなっています。なお、《安心できる場所がある》（1つでも《そう思う》と回答）割合は99.3%となっており、こども大綱のこども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標の2022年の現状値（99.1%※）と比べて0.2ポイントとわずかに上回っています。自分の家や学校以外の場所でも安心できる場が確保できていると考察されます。

※こども大綱のこども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標の2022年の現状値の中でも13歳の現状値と比較しています。

2-3 次のような場所の利用経験

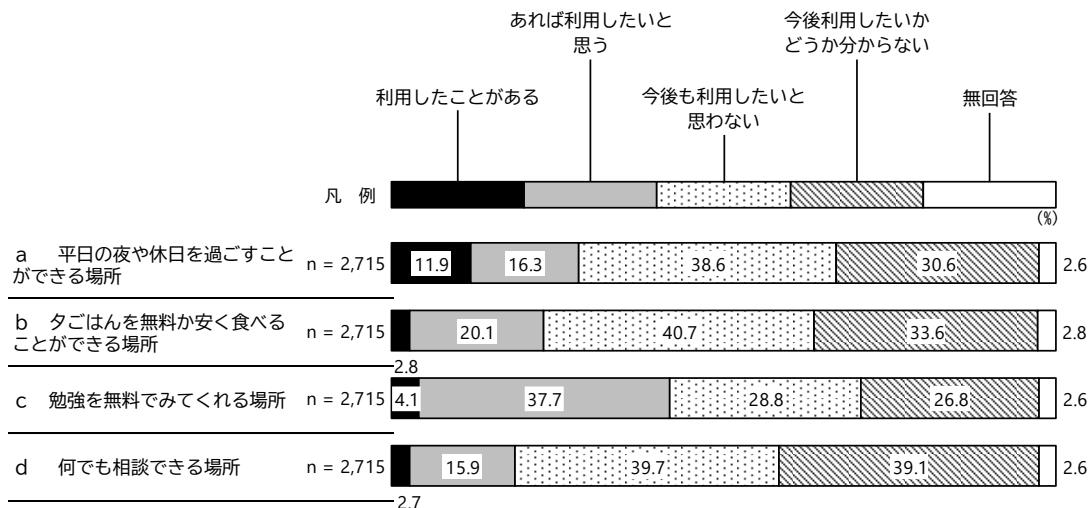
問7 あなたは、次のa～dのような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(a～d それぞれについて、1～4のいずれかに1つずつ○)

【令和6年度県調査】



【令和2年度国調査】

令和2年度「子供の生活状況調査」

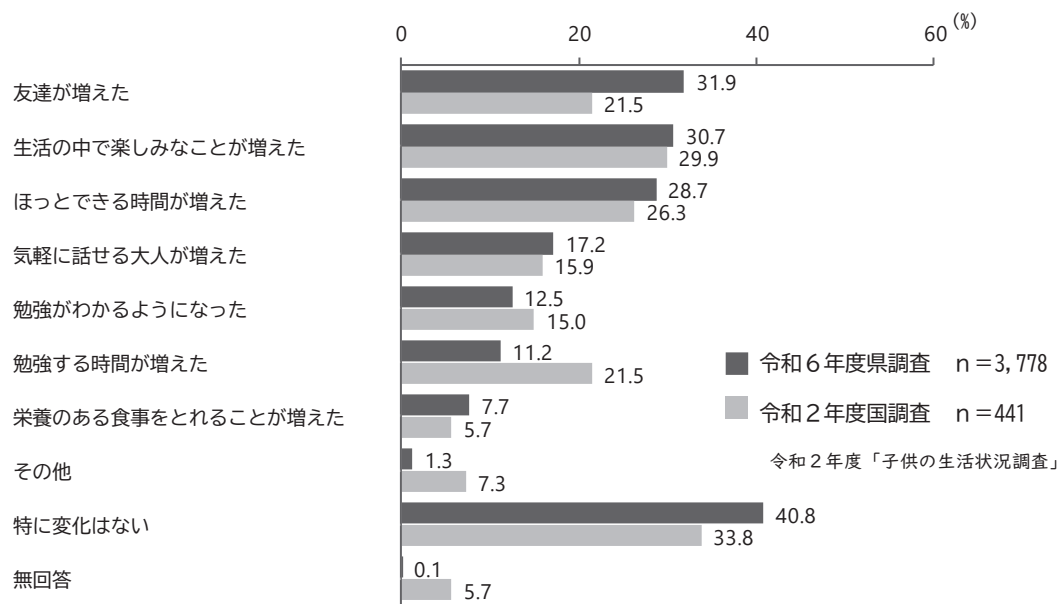


次のような場所の利用経験について、「利用したことがある」は『a 平日の夜や休日を過ごすことができる場所』が46.1%と最も高くなっています。

令和2年度国調査と比較すると、「利用したことがある」は全ての項目で令和2年度国調査よりも回答割合が高くなっています。特に『a 平日の夜や休日を過ごすことができる場所』が34.2ポイント高く大きな差がみられます。また、「あれば利用したいと思う」も全ての項目で令和2年度国調査よりも回答割合が高く、特に『b タごはんを無料や安く食べることができる場所』では13.4ポイント高くなっています。宮城県ではいわゆるこども食堂(『b』)の利用経験が比較的高く、利用ニーズも高いことがうかがえます。

2-4 利用したことによる変化

問8 前の質問で、1つでも「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。
そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。(〇はいくつでも)

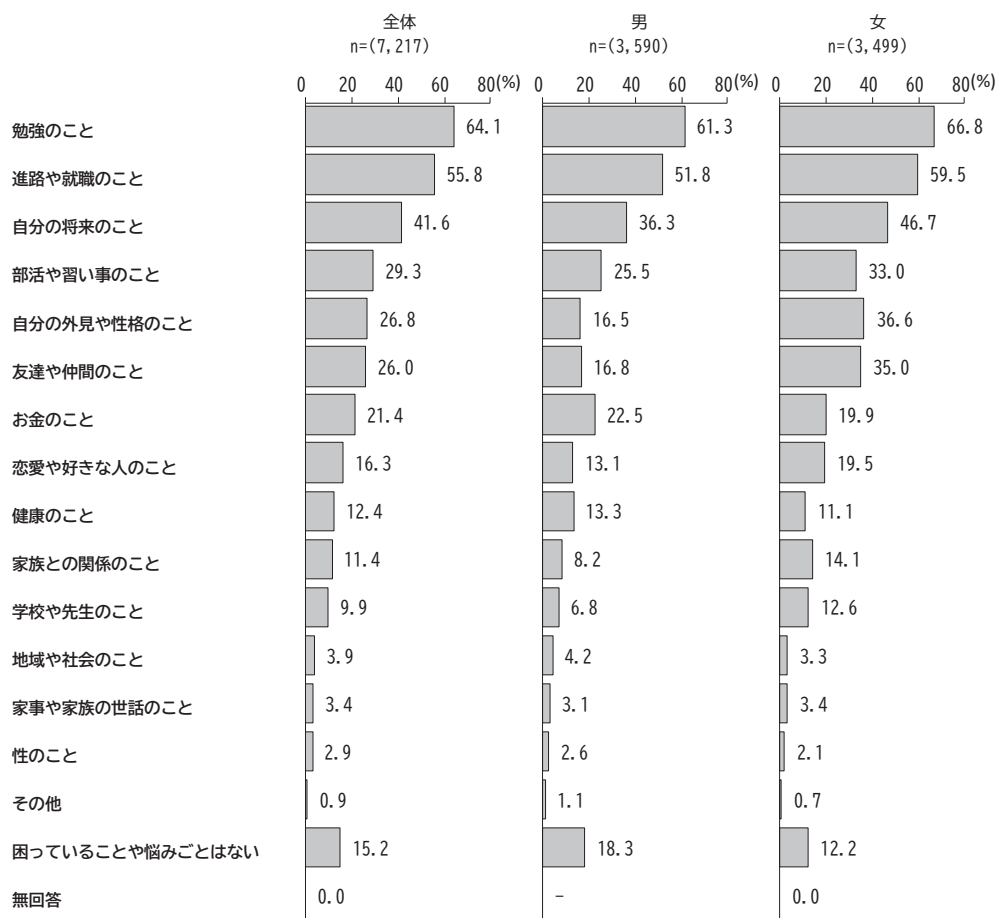


利用したことによる変化について、「友達が増えた」が31.9%と最も高く、次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」(30.7%)、「ほっとできる時間が増えた」(28.7%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「友達が増えた」が10.4ポイント高くなっています。一方、「勉強がわかるようになった」「勉強する時間が増えた」は、令和2年度国調査と比較して低くなっています。勉強に関する項目の回答割合は国調査と比べて低くなっているものの、それ以外の項目では国調査と比べて高い傾向があり、宮城県では地域の支援場所の利用によってポジティブな影響が広がっている状況がみられます。

2-5 困ったり悩んだりしていること

問9 あなたはいま、どんなことに困ったり悩んだりしていますか。(〇はいくつでも)



困ったり悩んだりしていることについて、「勉強のこと」が64.1%と最も高く、次いで「進路や就職のこと」(55.8%)、「自分の将来のこと」(41.6%)となっています。

性別にみると、男性に比べ女性で回答割合の高い項目が多く、特に、「自分の外見や性格のこと」が20.1ポイント、「友達や仲間のこと」が18.2ポイント、「自分の将来のこと」が10.4ポイント高くなっています。

3 家族や他者とのかかわりについて

3-1 家族や他者とのかかわりについて

問 11 家族・親せきとあなたのかかわりは、どのようなものですか。(a～c それぞれについて、1～4のいずれかに1つつつ○)

問 12 学校で出会った友達 //

問 13 地域の人 //

問 14 インターネット上における人やグループ //

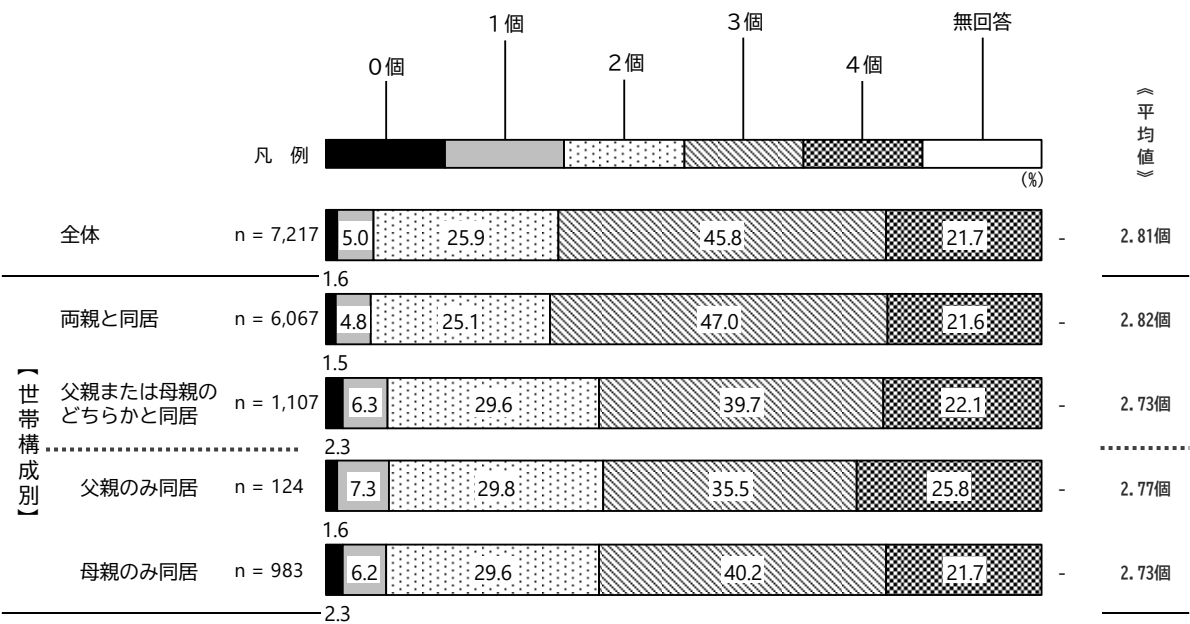
a 何でも悩みを相談できる人がいる

b こまったときは助けてくれる

c 他の人には言えない本音を話せることがある

「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」で回答

◆問 11～14 『b こまったときは助けてくれる』
世帯構成別／「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の個数



問 11～14 の『b こまったときは助けてくれる』について、「そう思う」、「どちらかといえ、そう思う」の個数を集計したところ、「3個」が45.8%と最も高く、平均値は2.81個となっています。家族・親せき、友達、地域の人、インターネット上の人の誰かには助けを求められると思っている《どこかに助けてくれる人がいる》人の割合は98.4%となっています。

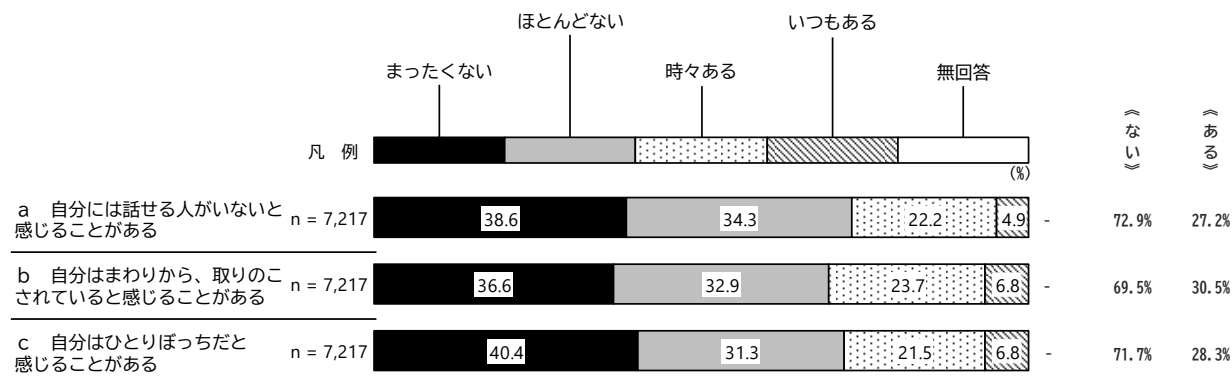
世帯構成別にみると、『両親と同居』世帯では『父親または母親のどちらかと同居』世帯に比べ平均値がやや高くなっています。

3-2 孤独感

問 15 以下の項目について、あなたはどのくらいよく感じていますか。

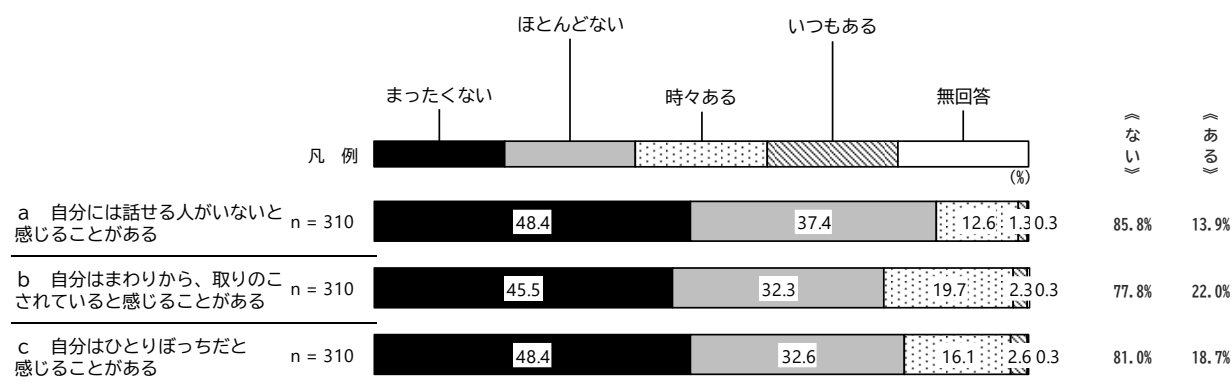
(a～c それぞれについて、1～4 のいずれかに1つずつ○)

【令和6年度県調査】



【令和4年度国調査】

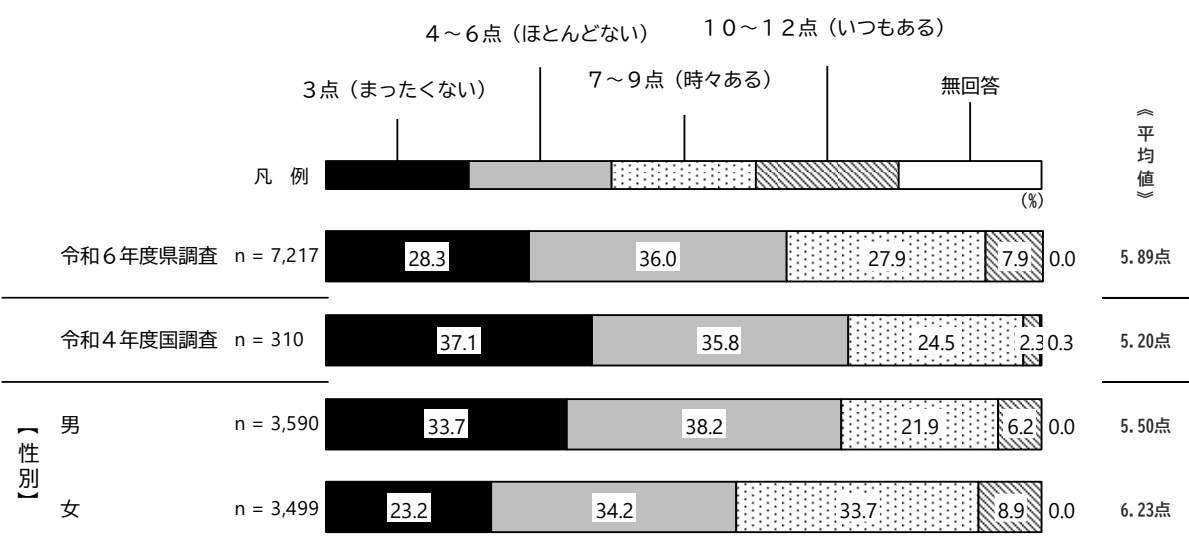
令和4年度「子ども・若者の意識と生活に関する調査」(※13歳の結果を抜粋)



回答者の孤独感を把握するため、3つの項目についてどのくらいよく感じているかをたずねたところ、全ての項目で《ある》(「時々ある」+「いつもある」の合計)が約3割となっています。

令和4年度国調査と比較すると、全ての項目で《ある》の回答割合が高くなっています。

◆性別／孤独感 合計点数（４区分）



令和4年度「こども・若者の意識と生活に関する調査」(※13歳の結果を抜粋)

計算式

合計得点：1点×「まったくない」の人数＋2点×「ほとんどない」の人数＋3点×「時々ある」の人数＋4点×「いつもある」の人数／「まったくない」～「いつもある」の人数でスコアを算出し、「a 自分には話せる人がいないと覚えることがある」のスコア＋「b 自分まわりから、取りのこされて覚えることがある」のスコア＋「c 自分はひとりぼっちだと覚えることがある」のスコアで合計点数を算出。

平均値：「a 自分には話せる人がいないと覚えることがある」のスコア＋「b 自分はまわりから、取りのこされて覚えることがある」のスコア＋「c 自分はひとりぼっちだと覚えることがある」のスコア／調査数で平均値を算出。

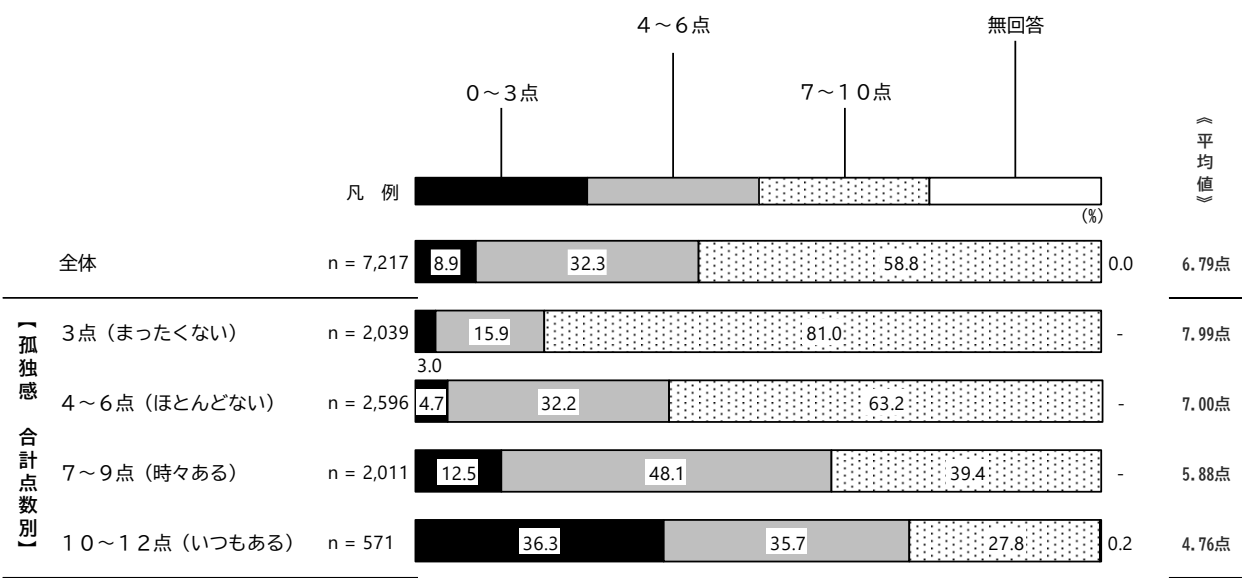
前述した孤独感を把握するための3つの項目について、上記の計算式でスコア及びその合計点数を算出しました。この合計点数が高いほど、「孤独感が高い」と評価するものとなっています。

上図のように孤独感の合計点数について、「4～6点（ほとんどない）」が36.0%と最も高く、次いで「3点（まったくない）」（28.3%）、「7～9点（時々ある）」（27.9%）となっています。

点数の平均点は5.89点であり、令和4年度国調査と比較すると0.69点高くなっています。

性別にみると、男性では「3点（まったくない）」が女性と比べ10.5ポイント高く、女性では「7～9点（時々ある）」が男性に比べ11.8ポイント高くなっています。平均値は、女性は男性に比べ0.73点高くなっています。

◆孤独感 合計点数別／生活の満足度



孤独感の合計点数別にみると、孤独感の合計点数が低いほど生活の満足度が高く、孤独感の合計点数が高いほど生活の満足度が低くなっています。平均値は、孤独感の合計点数が高くなるほど低くなり、『3点（まったくない）』と『10～12点（いつもある）』の差は3.23点となっています。

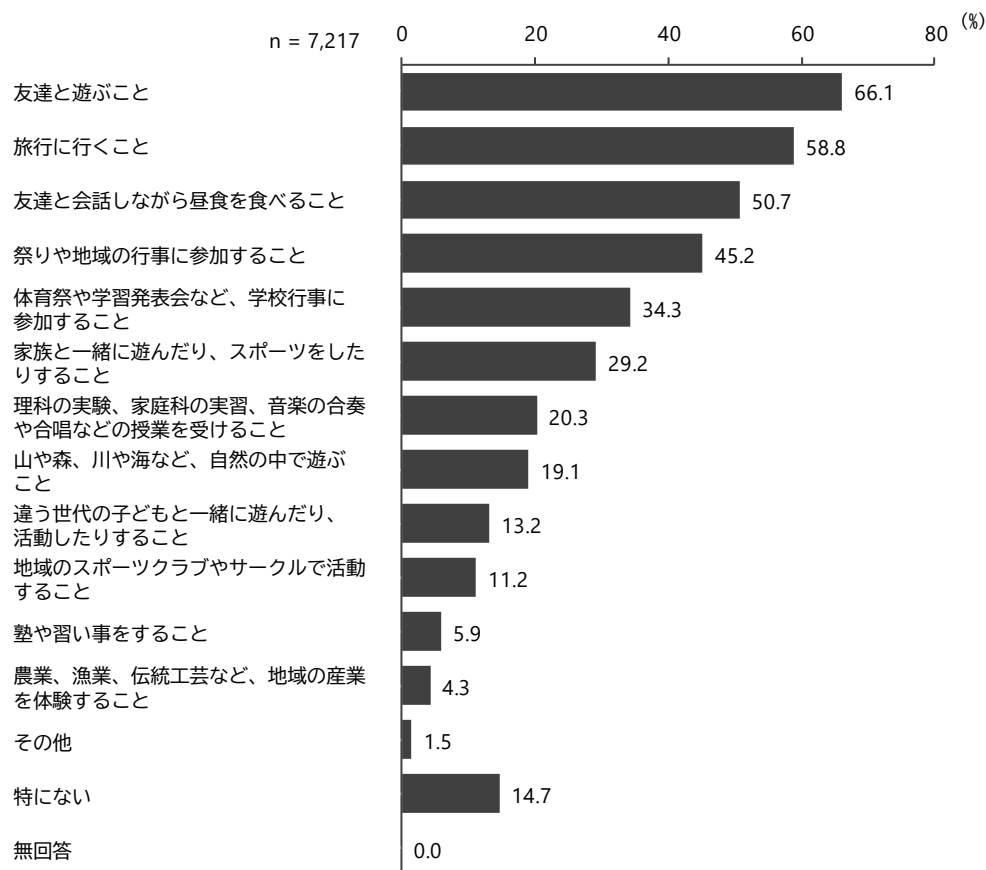
孤独感を解消することで生活の満足度の向上が期待できると考えられます。

4

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響について

4-1 新型コロナウイルス感染症拡大時に、やりたかったけれどできなかったこと

問 16 あなたは、新型コロナウイルス感染症が拡大していた時に、やりたかったけれどできなかったことはありますか。（〇はいくつでも）



新型コロナウイルス感染症拡大時に、やりたかったけれどできなかったことについて、7割近いこどもが「友達と遊ぶこと」と回答しており、「旅行に行くこと」（58.8%）、「友達と会話しながら昼食を食べること」（50.7%）でも半数以上のこどもが回答しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で日常の友人との交流が妨げられたことへの回答が多くなっています。

5

今考えていることや将来のことについて

5-1 自身の考え方

問 17 以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。

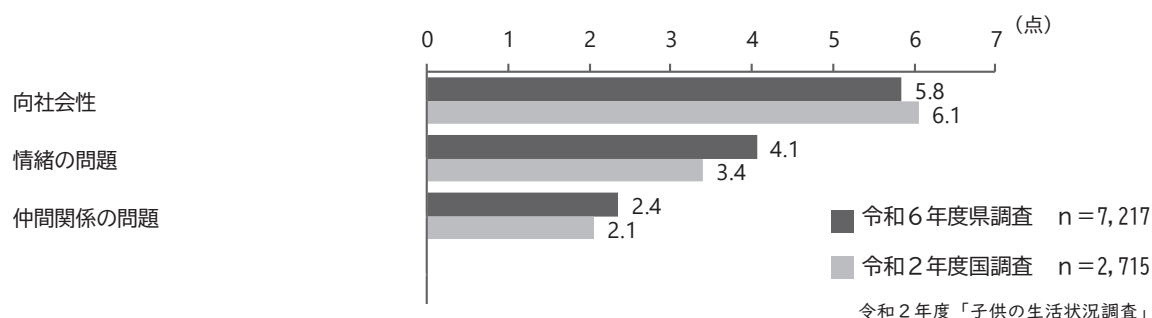
答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。

(a～o それぞれについて、1～3 のいずれかに1つずつ○)

強さと困難さアンケート (SDQ : Strengths and Difficulties Questionnaire)」を参考に問 17 の a～o 15 項目を【向社会性】、【情緒の問題】、【仲間関係の問題】に分類し結果をまとめました。

向 社 会 性	a	私は、他人に対して親切にしている。私は、他人の気持ちをよく考える。	あてはまるほど、社会性が高いと考えられる
	c	私は、他の子どもたちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）。	
	f	私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。	
	k	私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。	
	m	私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・他の子どもたちなど）。	
情 緒 の 問 題	b	私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。	あてはまるほど、問題性が高いと考えられる
	e	私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。	
	h	私は、落ち込んでしずんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある。	
	j	私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。	
	o	私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。	
仲 間 関 係 の 問 題	d	私は、たいいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。	あてはまるほど、問題性が高いと考えられる ※ただしgとiはあてはまらないほど、問題性が高い
	g	私は、仲の良い友達が少なくとも一人はいる。※	
	i	私は、同じくらいの年齢の子どもからは、だいたい好かれている。※	
	l	私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする。	
	n	私は、他の子どもたちより、大人という方がうまくいく。	

◆向社会性、情緒の問題、仲間関係の問題それぞれのスコアの比較



計算式

向社会性：0点×「あてはまらない」の人数＋1点×「まああてはまる」の人数＋2点×「あてはまる」の人数/「あてはまらない」～「あてはまる」の人数でスコアを算出し、向社会性（a, c, f, k, m）のスコアの合計を（調査数－無回答）で除し、平均値を算出。

情緒の問題：0点×「あてはまらない」の人数＋1点×「まああてはまる」の人数＋2点×「あてはまる」の人数/「あてはまらない」～「あてはまる」の人数でスコアを算出し、情緒の問題（b, e, h, j, o）のスコアの合計を（調査数－無回答）で除し、平均値を算出。

仲間関係の問題：0点×「あてはまらない」の人数＋1点×「まああてはまる」の人数＋2点×「あてはまる」の人数/「あてはまらない」～「あてはまる」の人数でスコアを算出し、仲間関係（d, g, i, l, n）のスコアの合計を（調査数－無回答）で除し、平均値を算出。
（※「g」及び「i」の項目は逆転項目としてスコアを算出）

自身の考え方について上記の計算式でスコア化して算出しました。【向社会性】は点数が高いほどポジティブな回答となり、【情緒の問題】【仲間関係の問題】は点数が高いほどネガティブな結果となっています。

令和2年度国調査と比較すると、【向社会性】は0.3点低くなっています。【情緒の問題】は0.7点、【仲間関係の問題】は0.3点高くなっています。【向社会性】【情緒の問題】【仲間関係の問題】いずれも令和2年度国調査よりネガティブな結果となっています。これらの結果から、【向社会性】では国よりもやや内向的かつ消極的な傾向、【情緒の問題】では国よりも繊細でナイーブな子どもが多い傾向、【仲間関係の問題】では仲間との関係に自信がなくやや一人でいたがる傾向であることがうかがえます。また、どんな悩みをもっているか各3分野のスコアを分析すると、「家事や家族の世話のこと」で悩んでいる子どもや「家族との関係のこと」や「学校や先生のこと」で悩みを持つ子どもは情緒が安定していない傾向であることがうかがえます。

上記スコアを問18の自己認識4項目別にみると、『a 今の自分が好きだ』『d 自分は役に立たないと強く感じる』では【情緒の問題】への影響が最も大きく、『b 自分の親（保護者）から愛されていると思う』『c うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む』では【向社会性】への影響が最も大きくなっています。

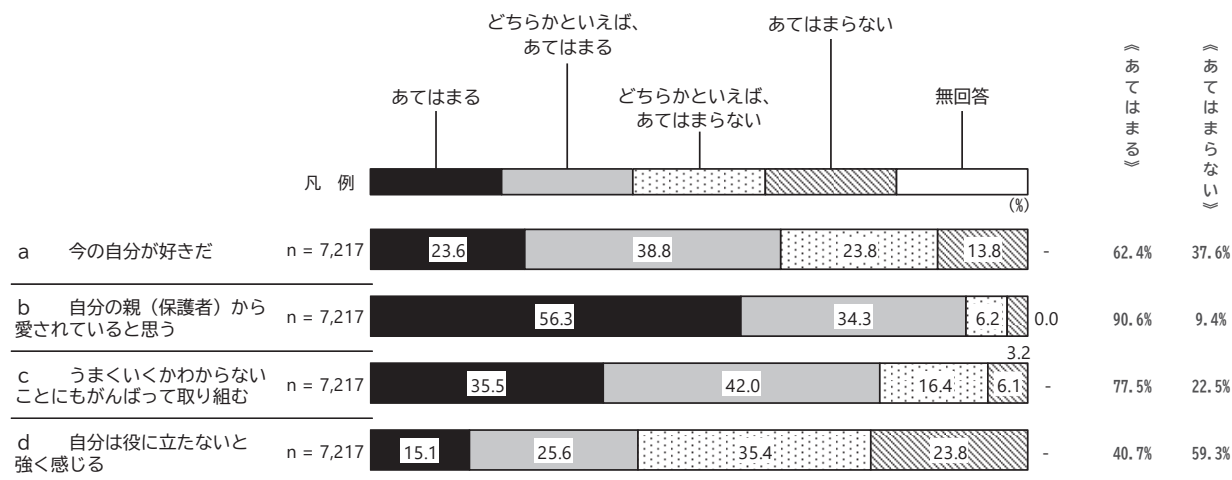
また、孤独感の点数別にみると、孤独感の点数が高いと【情緒の問題】【仲間関係の問題】への影響が大きくなっています。

以上から、自身の考え方には自己肯定感、孤独感と密接に関係しており、特に、家族や学校といった身近な人との良好な関係性はこどもの心の安定感に影響を与えていると考えられます。

5-2 自己認識

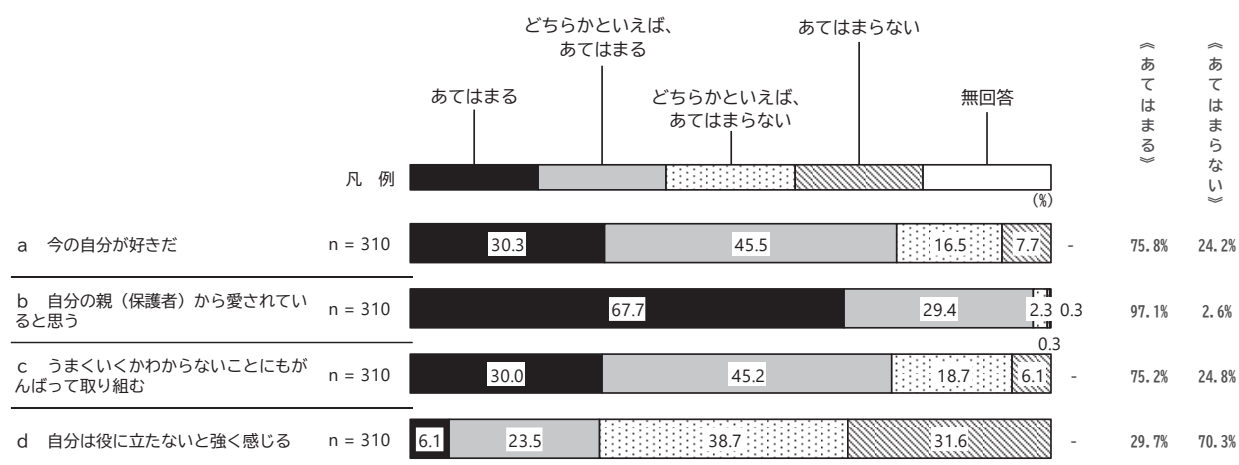
問 18 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。(a~d それぞれについて、1~4 のいずれかに 1 つずつ ○)

【令和 6 年度県調査】



【令和 4 年度国調査】

令和 4 年度「こども・若者の意識と生活に関する調査」(※13 歳の結果を抜粋)

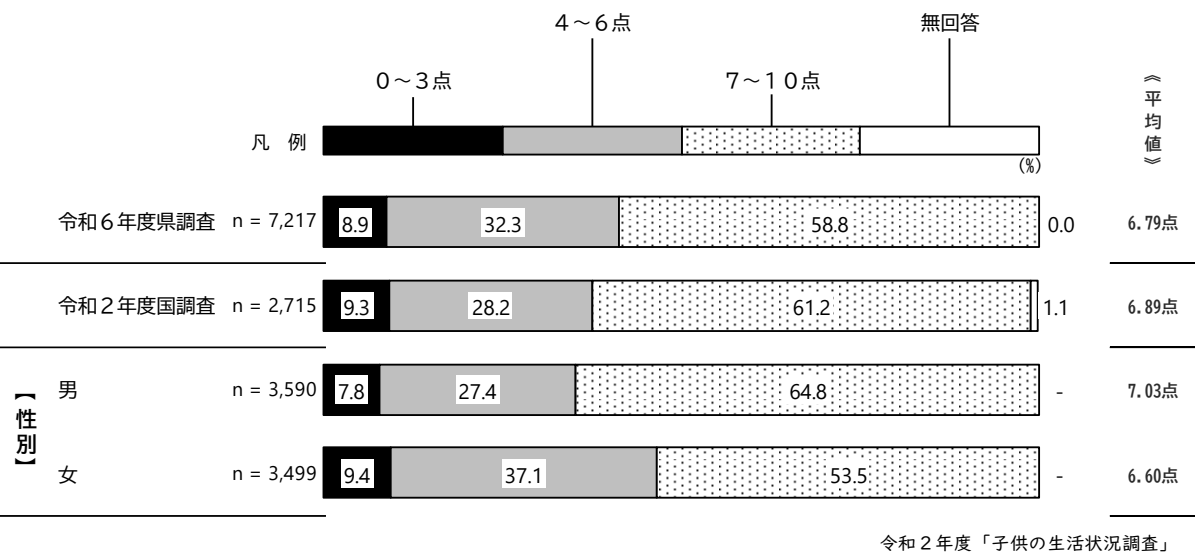


自己認識について、上記グラフに示した 4 項目をたずねたところ、《あてはまる》（「あてはまる」＋「どちらかといえば、あてはまる」の合計）では『b 自分の親（保護者）から愛されていると思う』が 90.6%と最も高くなっている一方、『d 自分は役に立たないと強く感じる』では 40.7%となっています。

令和 4 年度国調査と比較すると、《あてはまる》では『d 自分は役に立たないと強く感じる』が 11.0 ポイント高くなっている一方、『a 今の自分が好きだ』は 13.4 ポイント低くなっています。国調査と比べて自己肯定感が低く、自分に自信がないが、国調査と同様に『c うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む』は 8 割弱のこどもがあてはまると回答しており、多くのこどもが努力する姿勢を持っていると推察されます。

5-3 生活の満足度

問 19 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。
(○は1つ)

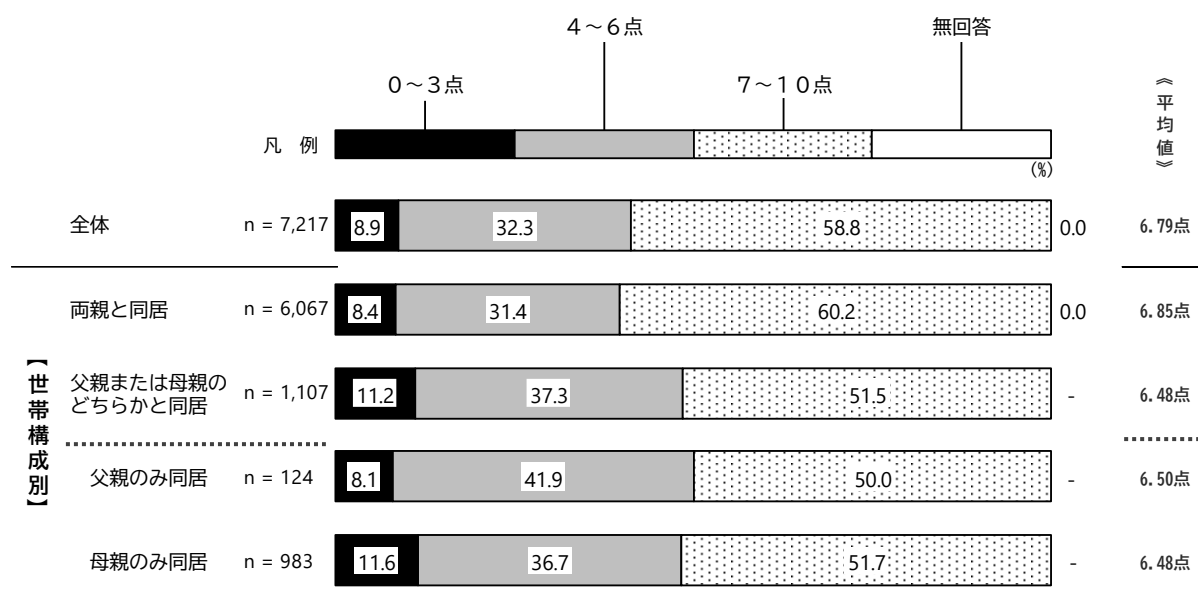


生活の満足度（3区分）について、「7～10点」が58.8%と最も高く、平均値は6.79点となっています。

令和2年度国調査と比較しても、回答結果および平均点に大きな差はありませんでした。

性別にみると、男性では「7～10点」が女性に比べ11.3ポイント、女性では「4～6点」が9.7ポイント高くなっています。平均値は男性がやや高く、男女の差は0.43点となっています。

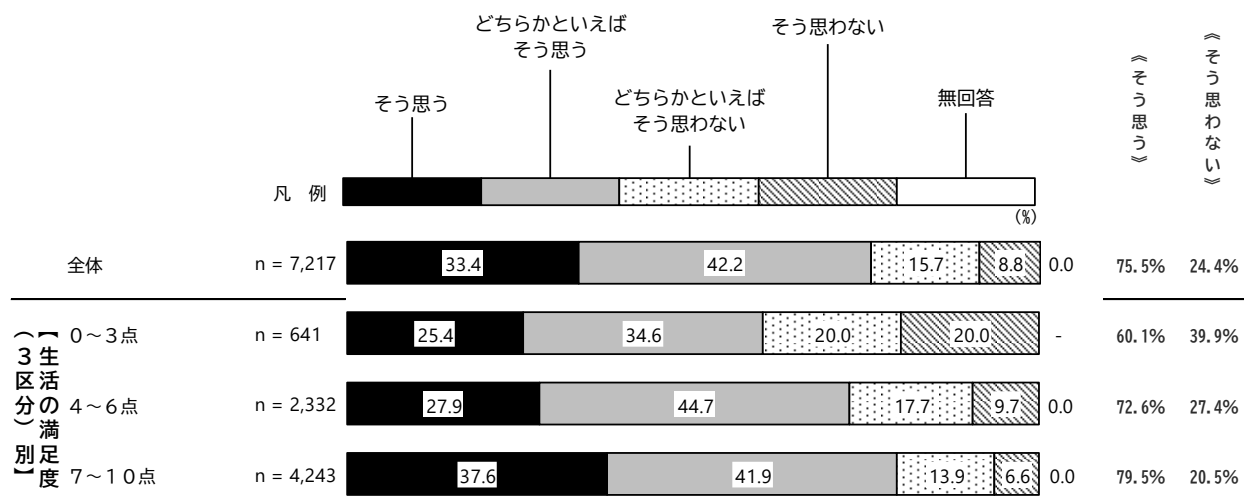
◆世帯構成別／生活の満足度



世帯構成別にみると、『両親と同居』世帯は「7～10点」が『父親または母親のどちらかと同居』世帯に比べ8.7ポイント高くなっています。

◆生活の満足度（3区分）別／宮城県に住み続けたい、

または他の地域に移り住むことになってのももどってきたいか

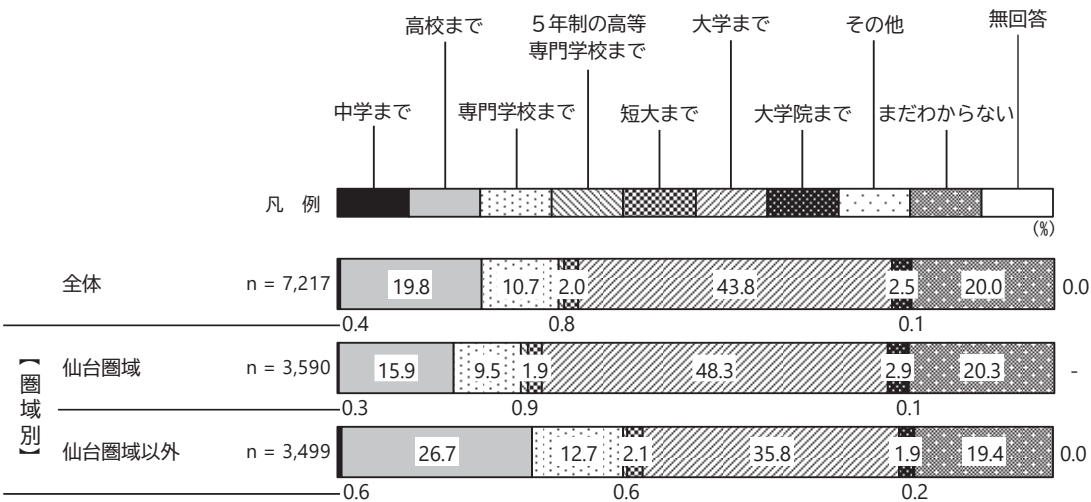


生活の満足度（3区分）別宮城県に住み続けたい、または他の地域に移り住むことになってのももどってきたいかをみると、『0～3点』の人では「そう思わない」が全体と比べて11.2ポイント高くなっています。

現在の生活に満足していない層の定住・Uターンの意向は低いことが考えられます。

5-4 進学希望

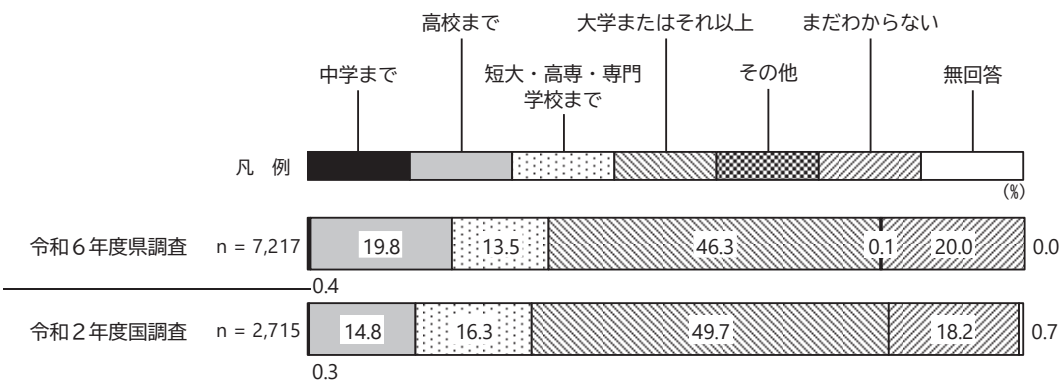
問20 あなたは、将来、どの学校まで進学したいですか。(〇は1つ)



進学希望について、「大学まで」が 43.8%と最も高く、次いで「高校まで」(19.8%)、「専門学校まで」(10.7%)となっています。一方、「まだわからない」との回答も 20.0%みられます。

圏域別にみると、仙台圏域では「大学まで」が仙台圏域以外に比べ 12.5 ポイント高くなっています。仙台圏域以外では「高校まで」が仙台圏域に比べ 10.8 ポイント高くなっています。

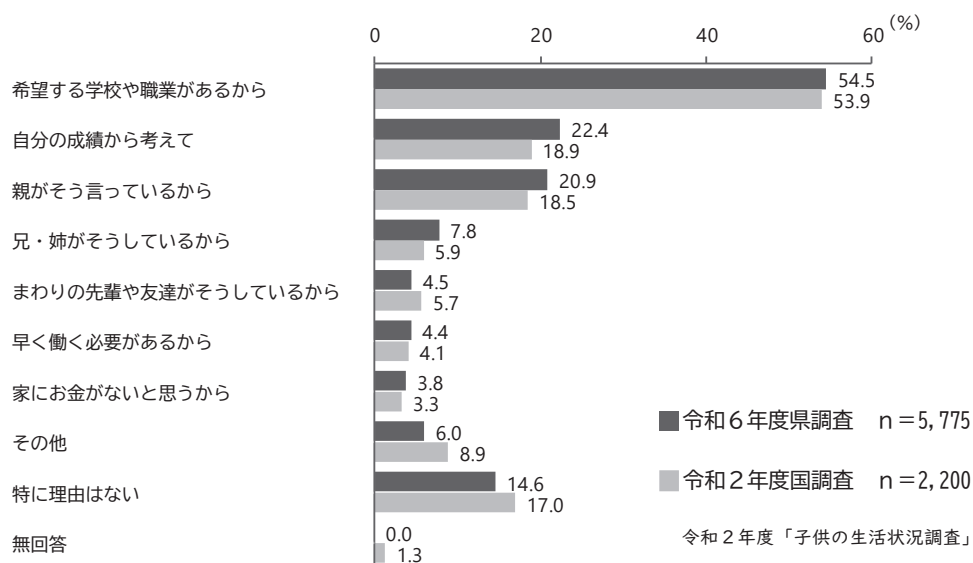
◆国調査との比較



令和2年度「子供の生活状況調査」

5-5 希望の学校へ進学したい理由

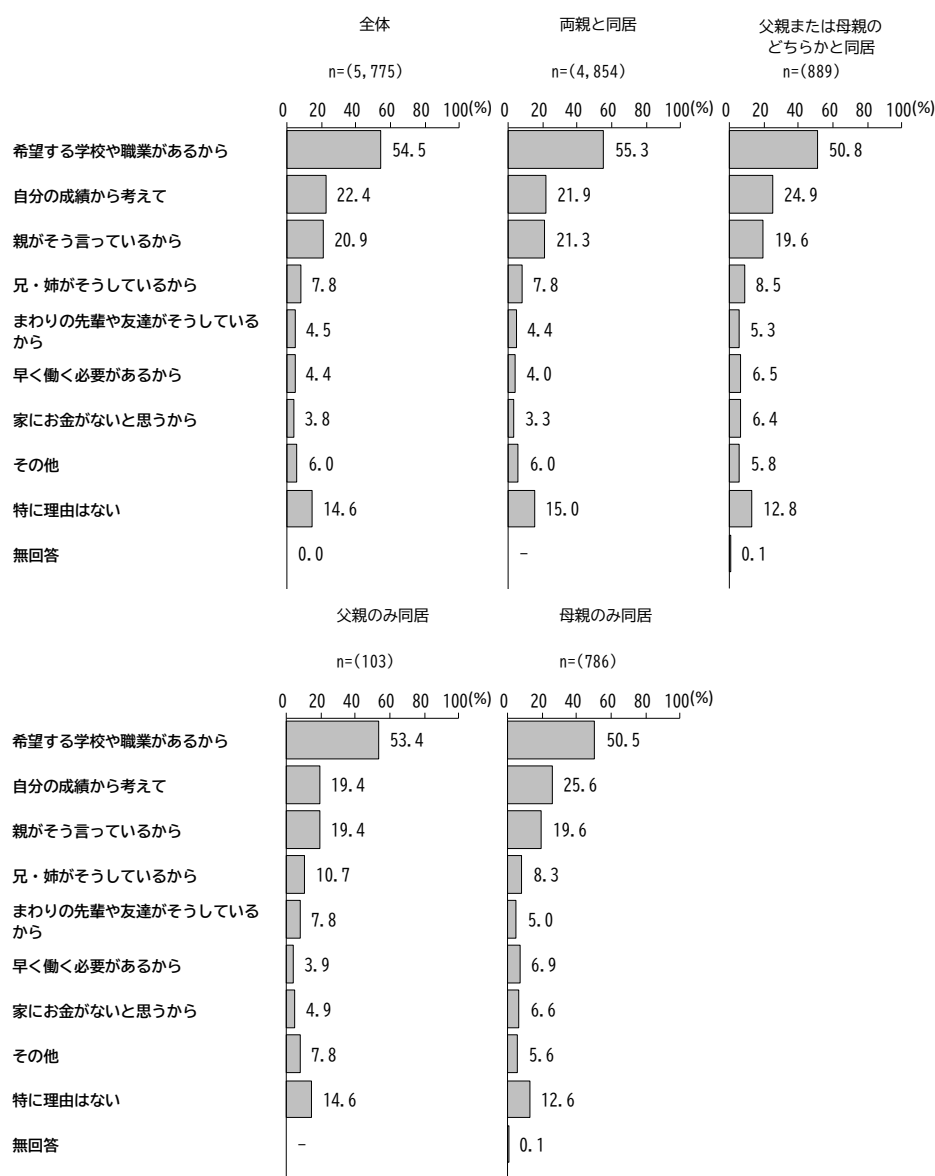
問 2 1 前の質問での回答は、どのような理由からですか。(〇はいくつでも)



希望の学校へ進学したい理由について、「希望する学校や職業があるから」が54.5%と最も高く、次いで「自分の成績から考えて」(22.4%)、「親がそう言っているから」(20.9%)となっています。一方、「特に理由はない」との回答も14.6%みられます。

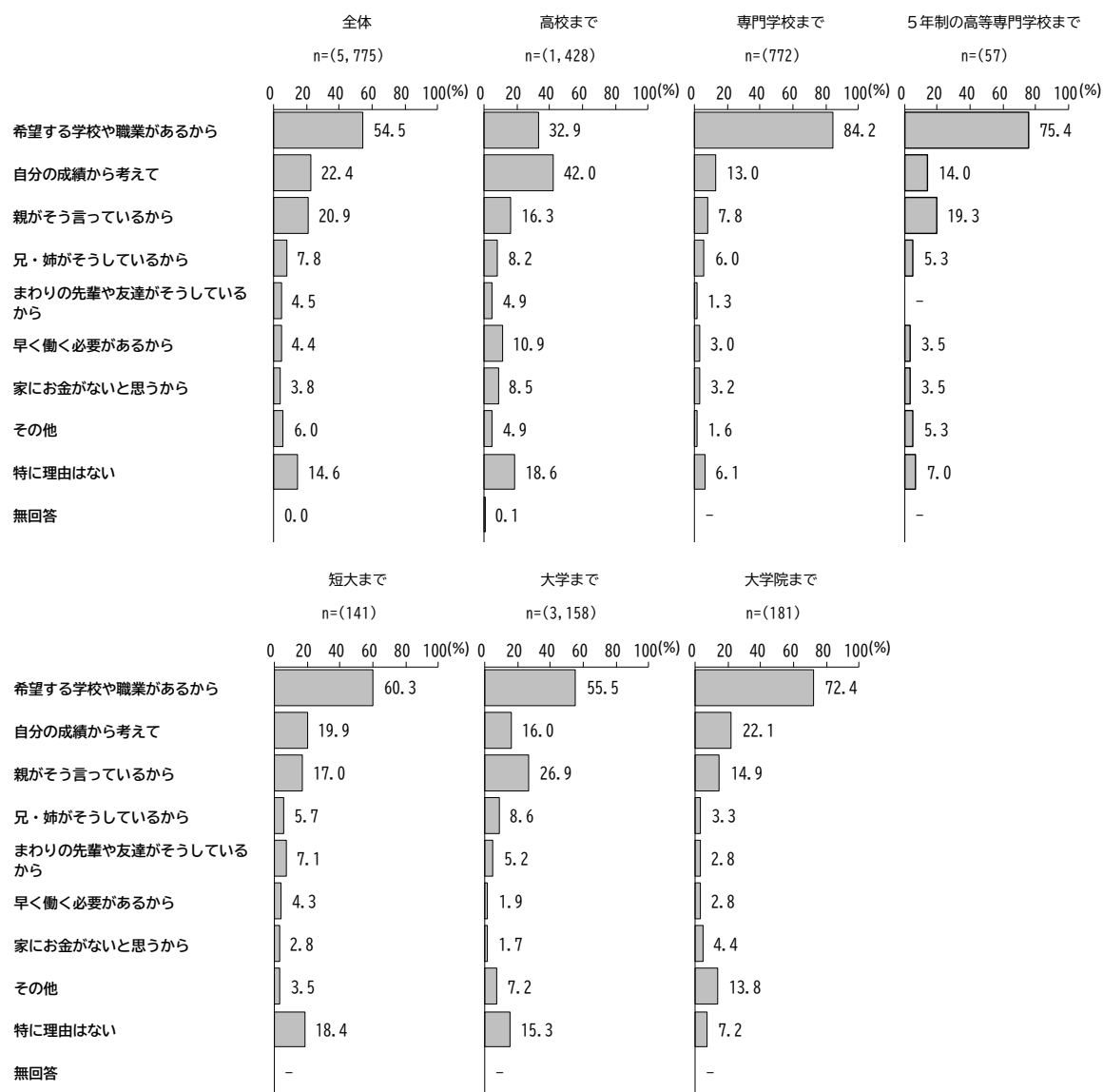
令和2年度国調査と比較しても、回答結果に大きな差はありませんでした。

◆世帯構成別／希望の学校へ進学したい理由



世帯構成別にみると、全ての世帯で「希望する学校や職業があるから」が最も高くなっている一方、『父親または母親のどちらかと同居』世帯では「希望する学校や職業があるから」、「親がそう言っているから」が『両親と同居』世帯に比べやや低く、その他の項目ではやや高くなっています。

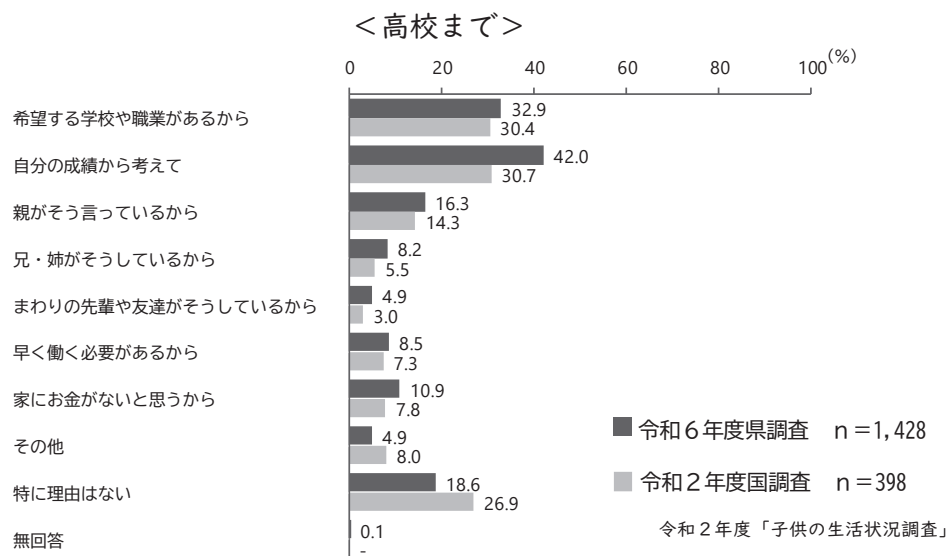
◆進学希望別／希望の学校へ進学したい理由



進学希望別にみると、『高校まで』進学希望の子どもでは「自分の成績から考えて」が最も高く、『高校まで』以外の進学希望の子どもでは「希望する学校や職業があるから」が最も高くなっています。また、『高校まで』進学希望の子どもでは「早く働く必要があると思うから」、「家にお金がないから」が『高校まで』以外の進学希望の子どもに比べやや高くなっています。

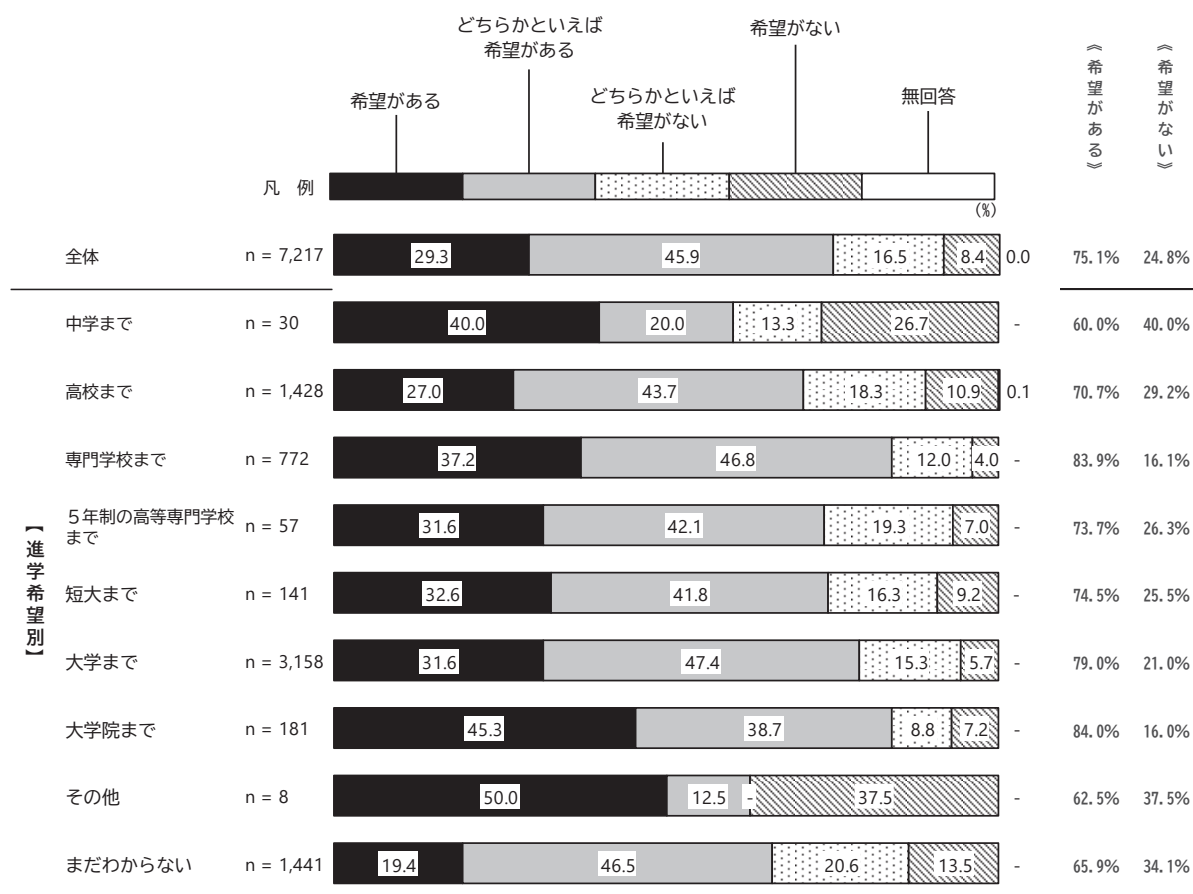
◆国調査との比較

進学希望別（高校まで）／希望の学校へ進学したい理由



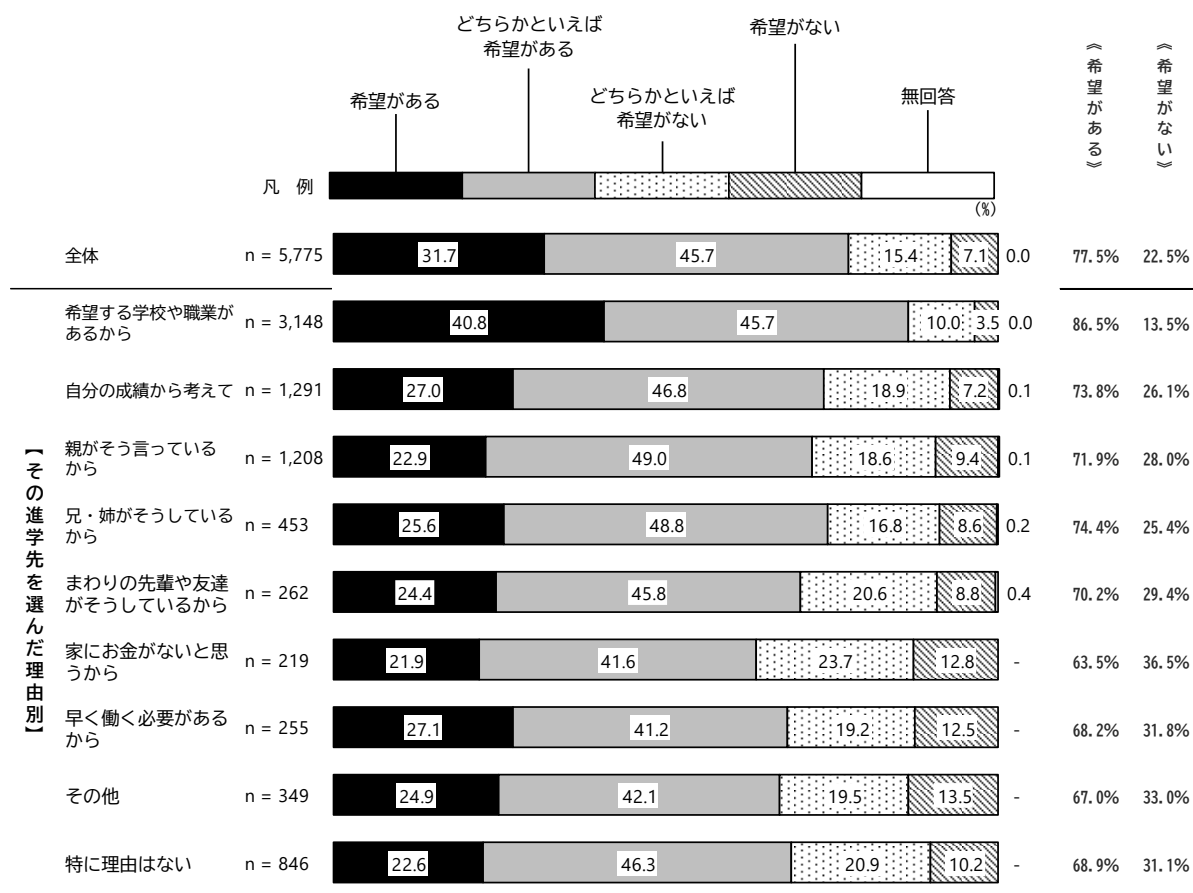
令和2年度国調査と進学希望先別に希望の学校へ進学したい理由をみると、『高校まで』進学希望のこどもは「自分の成績から考えて」が42.0%と10ポイント以上高くなっています。

◆進学希望別／自分の将来について明るい希望を持っているか



進学希望別に自分の将来について明るい希望を持っているかをみると、『大学まで』進学希望のこどもは将来に《希望がある》が『高校まで』進学希望のこどもに比べ 8.3 ポイント高くなっています。

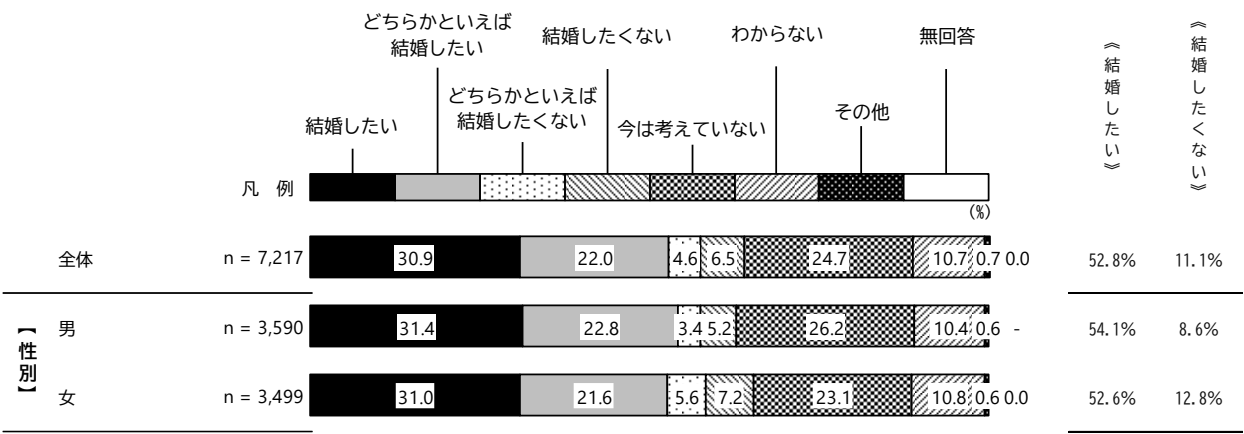
◆その進学先を選んだ理由別／自分の将来について明るい希望を持っているか



その進学先を選んだ理由別に自分の将来について明るい希望を持っているかをみると、『希望する学校や職業があるから』では将来に《希望がある》が86.5%と最も高くなっており、他の進学理由に比べ将来に《希望がある》の回答割合高くなっており、目標のあるこどもは将来に明るい希望を持っていると考えられます。

5－6 結婚に対する考え

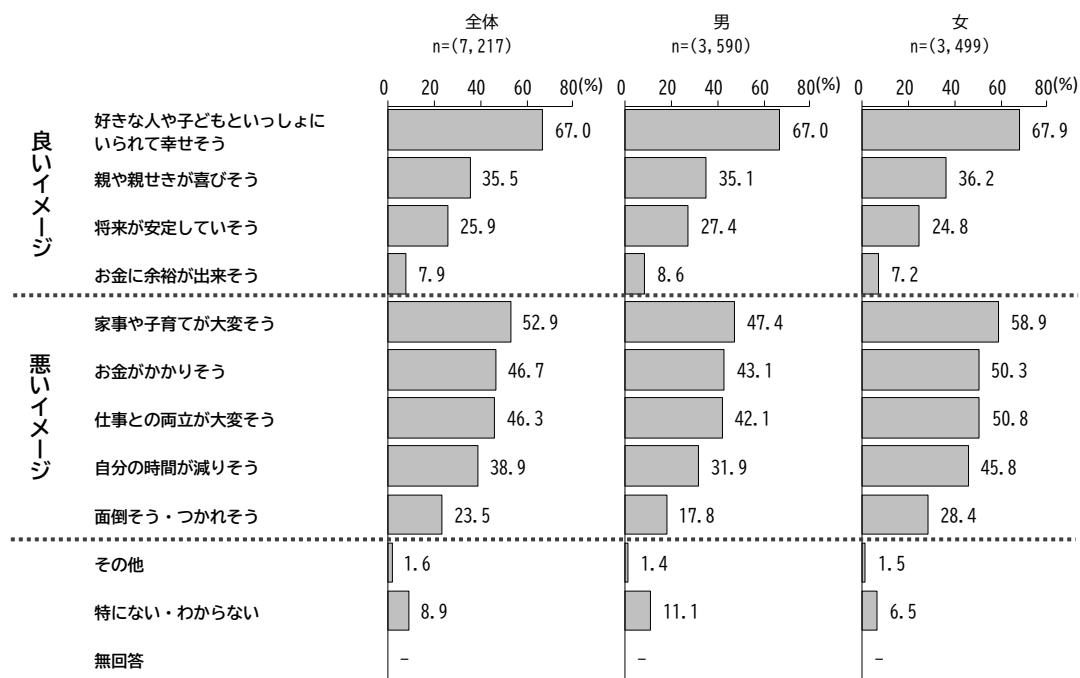
問 22 結婚について、あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。
(○は1つ)



結婚に対する考えについて、男女とも《結婚したい》（「結婚したい」＋「どちらかといえば結婚したい」の合計）が半数以上となっています。一方で、「今は考えていない」は25%程度、「わからない」は10%程度回答がみられます。

5-7 結婚に対して持っているイメージ

問 2 3 あなたが結婚に対して持っているイメージを教えてください。(〇はいくつでも)

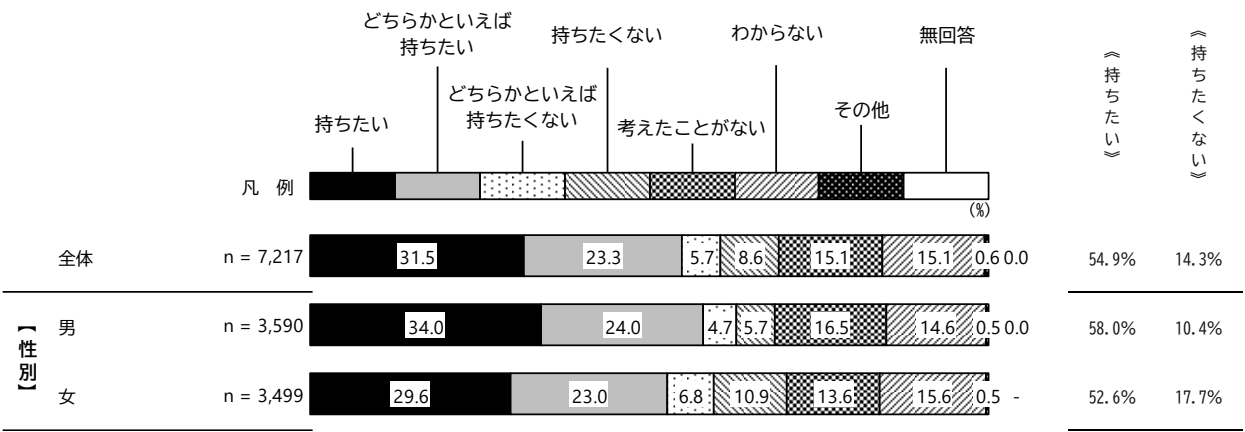


結婚に対して持っているイメージについて、良いイメージの項目である「好きな人や子どもといっしょにいられて幸せそう」が 67.0%と最も高くなっていますが、次いで悪いイメージの項目である「家事や子育てが大変そう」(52.9%)、「お金がかかりそう」(46.7%)が続いています。

性別にみると、良いイメージの項目では男女間で大きな差はみられませんが、一方で悪いイメージの項目ではいずれも男性に比べ女性の回答割合が高くなっています。特に、「家事や子育てが大変そう」、「自分の時間が減りそう」、「面倒そう・つかれそう」では男性に比べ 10 ポイント以上高くなっています。

5－8 将来子どもを持ちたいか

問24 あなたは将来、子どもを持ちたいと思いますか。あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

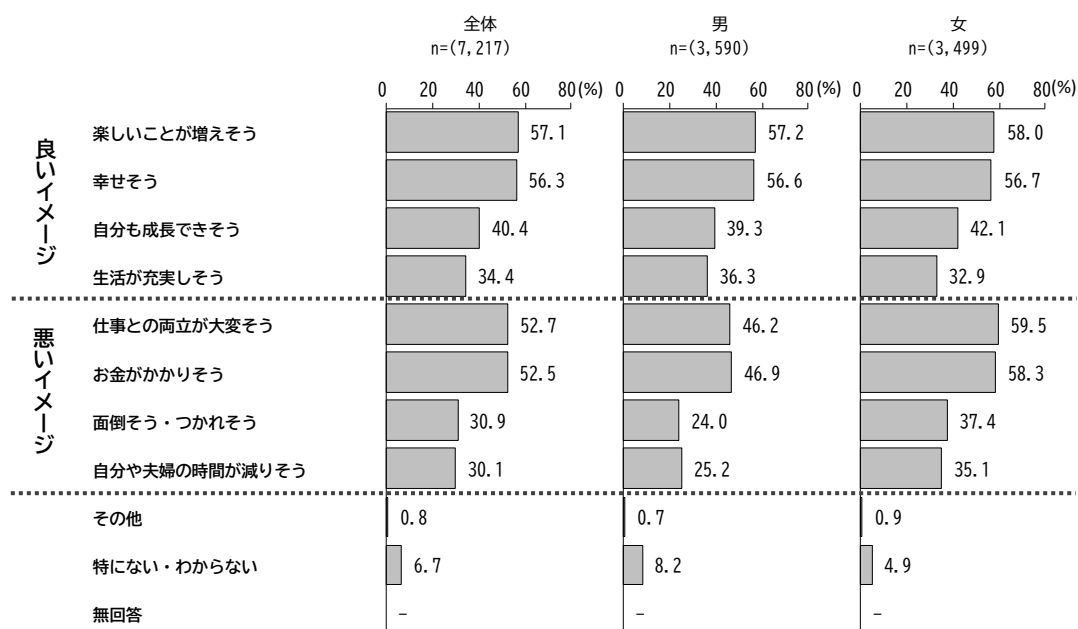


将来子どもを持ちたいかについて、男女とも《持ちたい》（「持ちたい」＋「どちらかといえば持ちたい」の合計）が半数以上となっています。一方で、「考えたことがない」「わからない」はいずれも15%程度回答がみられます。

5-9 子育てに対して持っているイメージ

問 25 あなたが子育てに対して持っているイメージを教えてください。

(○はいくつでも)

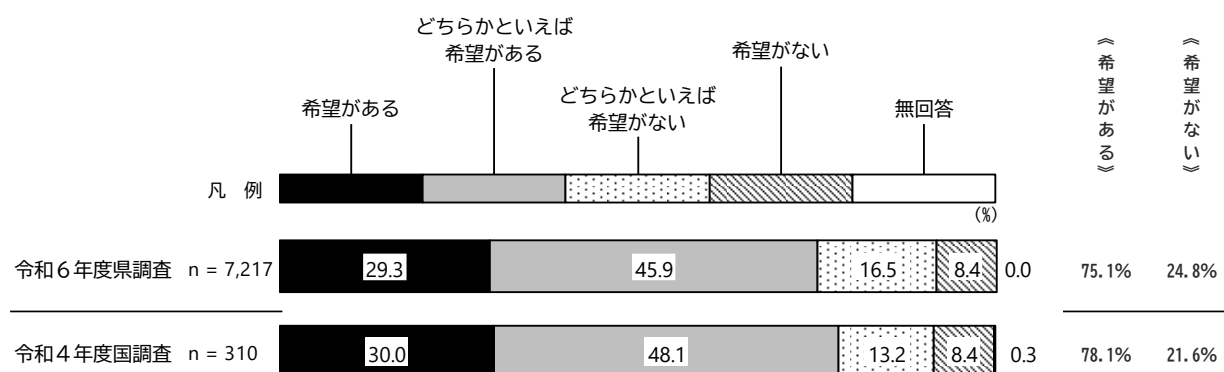


子育てに対して持っているイメージについて、良いイメージの項目である「楽しいことが増えそう」が57.1%と最も高く、次いで「幸せそう」(56.3%)となり、悪いイメージの項目である「仕事との両立が大変そう」(52.7%)が続いています。

性別にみると、良いイメージの項目では男女間で大きな差はみられませんが、一方で悪いイメージの項目ではいずれも男性に比べ女性の回答割合が高くなっています。特に、「仕事との両立が大変そう」、「お金がかかりそう」、「面倒そう・つかれそう」では男性に比べ10ポイント以上高くなっています。

5-10 自分の将来について明るい希望を持っているか

問 27 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(○は1つ)

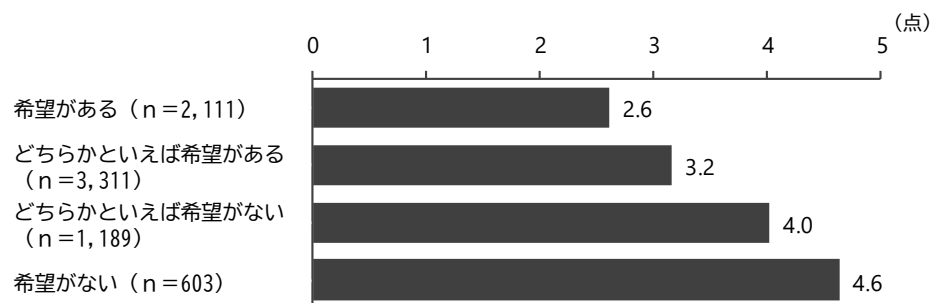


令和4年度「子ども・若者の意識と生活に関する調査」(※13歳の結果を抜粋)

自分の将来について明るい希望を持っているかについて、《希望がある》(「希望がある」+「どちらかといえば希望がある」の合計)が75.1%、《希望がない》(「希望がない」+「どちらかといえば希望がない」の合計)が24.8%となっています。

令和4年度国調査と比較しても、回答結果に大きな差はありませんでした。

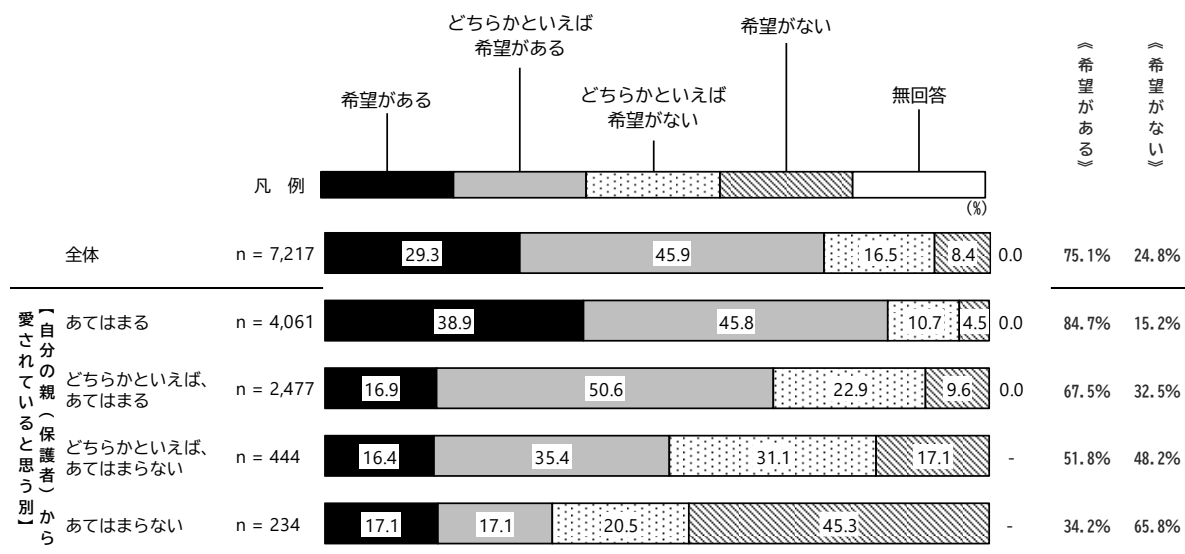
◆自分の将来について明るい希望を持っているか別／困ったり悩んだりしていること 個数



自分の将来について明るい希望を持っているか別に困ったり悩んだりしていることの個数をみると、自分の将来に『希望がある』層から『希望がない』層に向かうにつれて悩みや困りごとの個数が多くなる傾向にあります。悩みごとを解消することで、こどもが希望を見いだせるようになる期待が持てることが推察されます。

◆自分の親（保護者）から愛されていると思う別

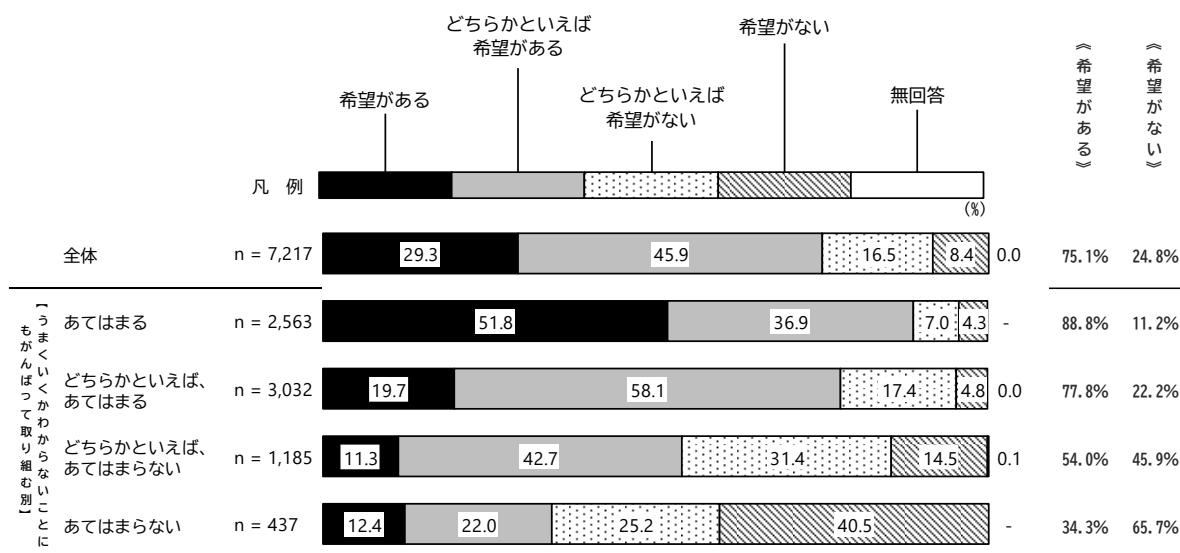
／自分の将来について明るい希望を持っているか



自分の親（保護者）から愛されていると思う別にみると、《希望がない》ではあてはまらないほど回答割合が高くなっており、特に、『あてはまらない』では6割を超えています。

◆うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む別

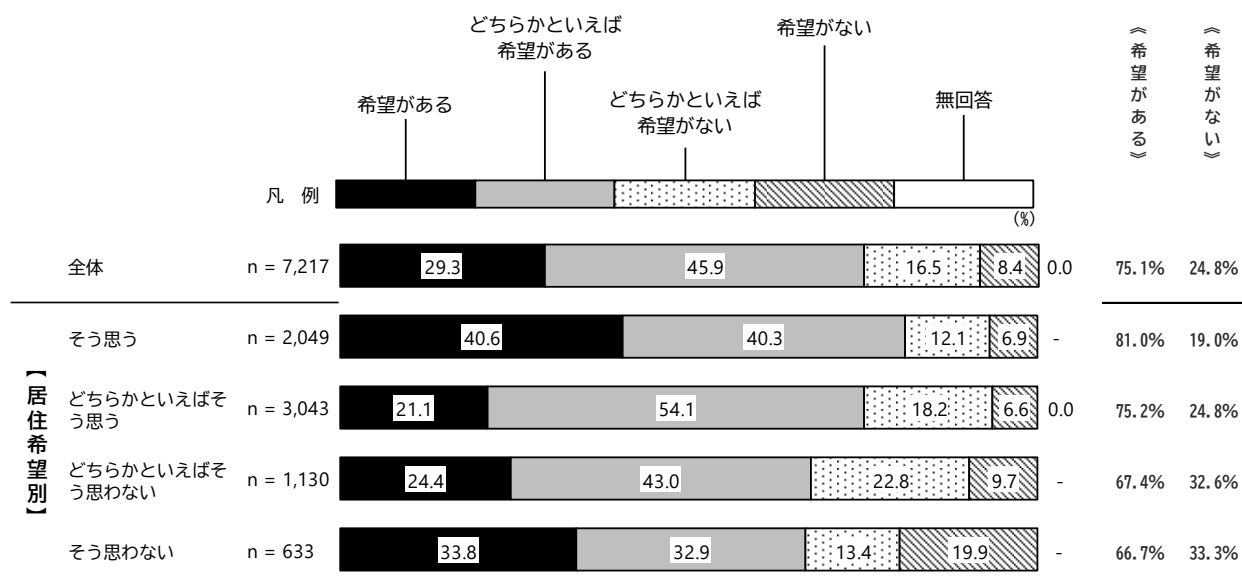
／自分の将来について明るい希望を持っているか



うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む別にみると、《希望がない》ではあてはまらないほど回答割合が高くなっており、特に、『あてはまらない』では6割を超えています。

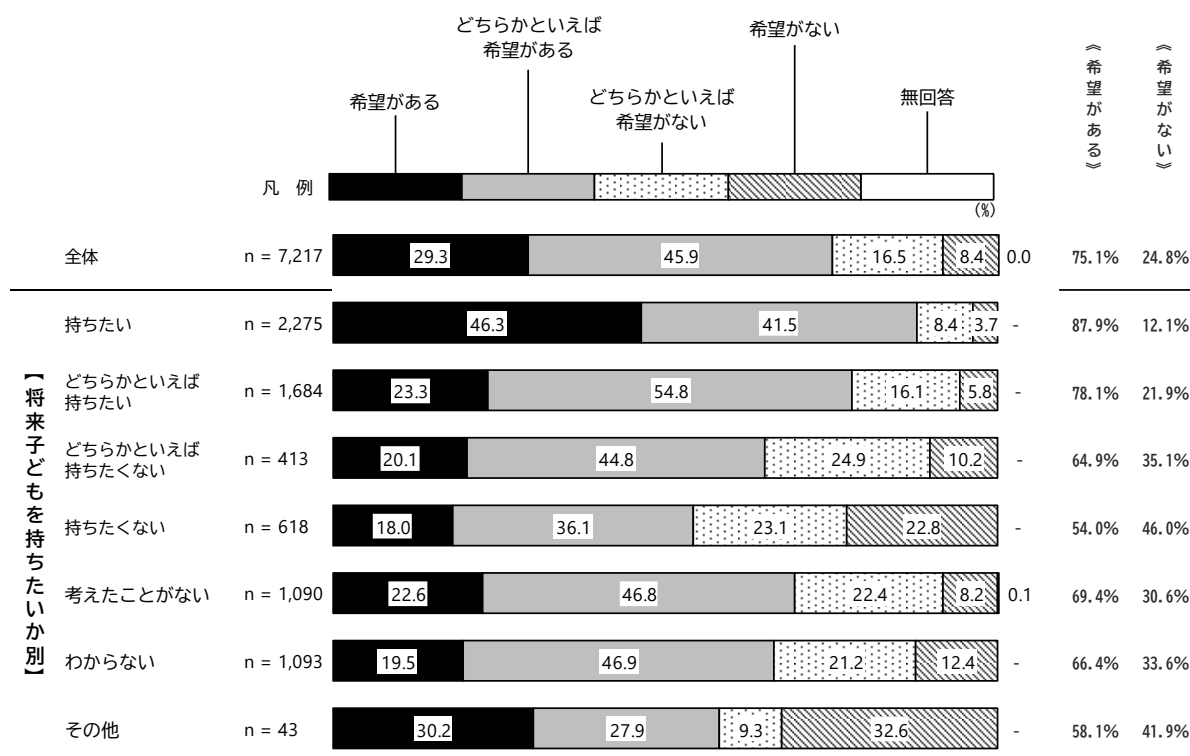
以上のことから、自己肯定感の高さと将来の希望は相関がある結果となっています。

◆宮城県に住み続けたい、または他の地域に移り住むことになってからもどってきたいか別
／自分の将来について明るい希望を持っているか



宮城県に住み続けたい、または他の地域に移り住むことになってからもどってきたいか別にみると、『そう思う』と回答した人では将来に《希望がある》と8割が回答しています。

◆将来子どもを持ちたいか別／自分の将来について明るい希望を持っているか



将来子どもを持ちたいか別にみると、子どもを『持ちたい』人では将来に《希望がある》が87.9%と高くなっている一方、『持ちたくない』人では54.0%にとどまっています。

Ⅲ 総括

1. 内向的な性格の傾向

- ・孤独感を国調査と比較すると、孤独感がやや高い傾向にあります。
- ・自身の考え方を【向社会性】【情緒の問題】【仲間関係の問題】の3分類に分けてそのスコアを国調査と比べると、いずれもネガティブな結果となっており、内向的かつ消極的な傾向、繊細でナイーブなこどもが多い傾向、仲間との関係に自信がなくやや一人でいたがる傾向がうかがえます。
- ・自己認識について、国調査と比べて自己肯定感が低く、自分に自信がない傾向があるものの、『うまくいくかわからないことにもがんばって取り組む』は国調査と同水準となっており、多くのこどもが努力する姿勢を持っていると推察されます。

2. 様々な場所で他者とのかかわることで得られる安心感

- ・宮城県のこどもの居場所として、家庭や学校のほかに地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）やインターネット空間も利用されており、安心できる場所となっています。
- ・また、宮城県では地域にある支援場所の利用経験が比較的高く、利用ニーズも高いことがうかがえます。利用したことで友達が増えたり、生活の中で楽しいことが増えたり、ほっとできる時間が増えたといったポジティブな効果が生まれています。
- ・孤独感が減少するにつれて、生活の満足度は高くなっており、孤独感を解消することで生活の満足度の向上に期待できると考えられます。
- ・どんな悩みをもっているかごとに【向社会性】【情緒の問題】【仲間関係の問題】の各3分野のスコアを分析すると、家族や学校といった身近な人間関係のことで悩みを持つこどもは情緒が安定していない傾向であることがうかがえます。
- ・こどもたちが様々な方法で良好な人間関係を築けるようになることでウェルビーイング向上につながってくることが期待されると考えられます。

3. 将来の希望

- ・大学まで進学を望むこどもは約4割となっており、希望する学校や職業があるからといった理由が最も多くなっています。このようなこどもたちは自分の将来について「希望がある」との回答が多い一方で、自分の成績を考えて高校までの進学を望むこどももいます。そのようなこどもは大学まで進学を望むこどもに比べて自分の将来について「希望がない」との回答多い傾向にあります。
- ・中学2年生の段階で結婚・子育てを望むこどもは約半数となっています。一方で、まだわからない及び考えていない割合は結婚・子育てともに3割程度となっています。結婚・子育てともに幸せになれるそうとのイメージが多い一方、女性では家庭生活に対して不安を感じています。
- ・自分の将来について「希望がない」と回答するこどもは困ったり悩んだりしていることの個数が「希望がある」と回答するこどもに比べて多くなっており、悩みや困りごとがあることが将来の不安要因になっていると考えられます。また、親（保護者）からの愛や努力する自己肯定感が薄いこどもが「希望がない」と回答する傾向にあります。
- ・宮城県に住み続けたい、または他の地域に移り住むことになってももどってきたいと回答するこども、将来こどもを持ちたいと回答するこどもは自分の未来に明るい希望を持っています。
- ・進学、結婚、子育て等のライフステージごとの人生の選択にポジティブなイメージを持っているこどもは将来に希望をもっている傾向にあります。
- ・より多くのこどもに将来の希望をもたせるには、現状悩みを抱えているこどもや自分を否定的に感じているこどもを救い、前向きになれるようにしていくことが重要と考えられます。